

千代田区行政評価委員会 子ども・保健福祉分科会（第2回）議事録

日 時：平成29年7月10日（月）午後1時30分～4時30分

場 所：千代田区役所6階 特別会議室

出席者：（学識委員）出雲委員、朝日委員、村上委員

（委員：説明者）大矢委員、小川委員

（委員：評価者）松本委員、清水委員

（委員：事務局）亀割委員、湯浅委員

配付資料：資料1 第2回子ども・保健福祉分科会 委員名簿

1 開会

発言者	発言内容
湯浅委員	<p>すみません。ちょっとお時間より早いですが、皆様おそろいですので、始めさせていただきたいと思います。</p> <p>申し訳ございませんが、本日、事務局の亀割が別の公務が急遽入りまして、途中から改めて出席させていただきますので、よろしくお願いたします。</p> <p>それでは、第2回子ども・保健福祉分科会を開催させていただきます。</p> <p>まずはお手元の資料を確認させていただきます。次第が一番上にごございますクリップ止めの資料をご確認ください。本日の議題は、評価は4項目となっております。2枚目が資料1、子ども・保健福祉分科会委員名簿、こちらの変更はございません。それから、もう一つが、事前にご質問いただいておりますので、施策の目標の事前質問表、全部で3点でございます。よろしいでしょうか。</p> <p>改めて確認させていただきますが、本日の分科会は、原則公開となっております。本日の皆様のご意見などは、議事録としてホームページで公開させていただきます。参考資料の取り扱いが必要な場合は、会の中でお諮りいたします。</p> <p>本日につきましては、事前の質問資料、こちらは、参考資料として配付としたいのですが、よろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">（「はい」の声あり）</p>
湯浅委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、また第2回の分科会の開会に当たりまして、出雲分科会長よりご挨拶をよろしくお願いいたします。</p>
出雲分科会長	<p>今日も暑い中ですがけれども、スムーズに議論ができればというふうに思っています。私ももう一つの分科会とこちらとで、今ちょっと集中的にやっている感じでして、ちょっとこんがらかったりもしているのですがけれどもよろしくお願いいたします。</p>
湯浅委員	<p>ありがとうございます。本日も引き続きよろしくお願いいたします。</p>

湯浅委員	<p>また、司会進行は、私のほうで引き続き務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>前回の分科会と同じ進め方で、進行させていただきますが、特段ご質問がなければ早速評価に入りますが、よろしいでしょうか。</p> <p>（「はい」の声あり）</p> <p>ありがとうございます。</p>
------	---

2 施策評価

(1) 施策の目標22

湯浅委員 大矢委員	<p>それでは、施策の目標22につきまして、事前にご質問がございましたので、所管部長である子ども部長からご説明をよろしくお願いいたします。</p> <p>はい。区立と同程度の質とは具体的に何を指しているのか等、なんですけども、保育の資質とはさまざまな見解がございまして、日々子どもたちに関わる保育士の資質を基本として、保育環境や保育内容、さらには保護者支援等も含んだ極めて広範かつ複合的な要素から構成される概念ですが、保育環境においては、まず私立保育園はほとんど園庭を持っておりません。子どもたちが外遊びをする場所は公園や児童公園となります。子どもたちが安全・安心に遊ぶことができるよう、公園・児童遊園を見守る公園安全利用指導員を配置しております。また、私立の保育園の園児のために区立の保育園やこども園の園庭を解放するなど、さまざまな形で支援をしております。</p> <p>保育内容においては、区立保育園の園長OBが巡回指導でしょっちゅう、私立園だとか、認証とか、いろんなところに行っています。私立の保育園・保育士に対しては、保育の実技や口頭による指導や保育に関する指導の提供など巡回指導を行ったり、また保育に関する質問や課題に答えるために、年5回、公立・私立の保育士交流会、保育の質を向上できるような研修を実施しております。また、保育士は重労働のため早く退職する方も多く、私立保育園の保育士にベテランが少ないという問題もあり、区は保育士の処遇改善に係る経費を大幅に増額し、ベテランの離職を防いで、定着率の向上を目指しています。</p> <p>園長OBなんかは実際にほとんど毎日どこかの認証とか私立保育園に行って、そこの0歳児クラスとか何かはずっと午前中いっぱいいたり、場合によったらある園に1日いたりして、保育士とつきっきりで丸1日いたりとか、そんなような形でも指導していますので、かなり濃い指導をしています。</p> <p>それから、今言ったほかにも、幼稚園、保育園、こども園全部、認証保育園なんかと一緒に合同子ども会、あるいは連合作品展、幼保合同園長会とか、かなりそういう交流は頻繁にしておりまして、保育の質を均</p>
------------------	---

一にするようにしたり、また区の保育園は基幹園として、それぞれの地区ごとの区立保育園を基幹園として、周りにある私立保育園や認証保育園の相談に乗ったり園庭の開放等をしていますので、そういう意味では連携等をしております。

それから、学童クラブの取組みを問題とする必要があるのではないかと。どのようなことを行っているか。イベントや教育——ちょっと趣旨が正確にわからなかったんですけど、学童クラブ、大体両親が働いていて、保育園の例えば延長、小学校に入ったときに、いわゆる鍵っ子とかにならないように、両親が働いている等の理由で学童クラブで家庭的なものを提供するということですので、もともと居場所がないお子さんを預かる。その中身としては、ほとんど例えばお楽しみ会だとか誕生祝い会、それからバスの遠足、昼食づくりやおやつづくり、保護者会、面談会、お楽しみおやつデイなど、園ごとにいろいろありますけど、遠足だとかおやつづくりだとかお楽しみ会などを中心に、ほとんど似たような、公立・私立を問わずやっております。したがって、特に学童クラブの取組み自体は、今言ったように、保護者が働いたりして見られないお子さんを預かるということですので、特にイベント等が問題になっているようなことはないと思うんですけど。

それから、特徴のある私立保育園の誘致をすることもあり得るかということなんですけども、基本的には、まずは認可保育園、保育の数がぎりぎりのところでやっておりますので、特徴ある私立保育園は確かにたまにいます。ただ、問題は、気をつけないと、例えば英語教育だとかいろんなことを売りにした保育園がある場合は、それが別オプションとかになっていて、それでそれが別のお金をとりますみたいなことがあったりして、結果的にほとんどのお子さんが逆にそういうのを申し込んでいたりすると、普通に申し込んでいる人が何かそのオプションをしなきゃいけないような感じになったりしちゃうようなこともあるので、なるべくオプションで英語を逆に教えますみたいなのがあったりするときは、ちょっと気をつけないと、基本的には全国一定の子どもを預かって、その中でうちの保育園や幼稚園等々と水準を合わせたようなことをやっておりますので、誘致をするそういう特徴ある保育園も、それを求めて誘致するんじゃないかと、たまたま手を挙げた中にそういうことをする保育園が入っていることがございます。ただ、そうした場合に逆に気をつけないとそういうふうな確かに事例もありまして、気をつけないと、そういう高いオプションのほうがメインになったりしないように、あるいはそれが、特に、場合によってはそれが非常に高額なようなものがあったりする場合には本末転倒ですので、その辺は気を使っています。

一応質問はそういうようなことだと思いますけれども、ちょっと今質問のちょっと趣旨がわからないようなところも若干あったんで、答えになっているかどうかわかりませんが。

<p>湯浅委員</p>	<p>以上です。 ありがとうございます。 ただいまの質問でもう少しご説明をいただきたいところはございますか。</p>
<p>出雲分科会長 湯浅委員 出雲分科会長</p>	<p>いいですか。伺ってもいいですか。 はい。 区立と私立の程度の差というのは、園庭に端的に表現されるものということなんですけど、外形的に、例えば園庭がある・ないというのプラス、保育士さんの技量、技術のようなものの差もありますか。それを指導していらっしゃるんですか。</p>
<p>大矢委員</p>	<p>やっています、さっき言ったように。退職した園長が回っているなんていうのは、まさに、そこの別に数に入っていないですけど、退職した園長がそういう私立園やなんかに行って、0歳児クラスやなんかになんかというわけですよ。それで若い保育士さんやなんかと一緒に1日中いて、その場で実体験を示しながら教えているとか、そういうことは実際にやっています。で、さっき、そのほかにもいろんな園長会とか研修会とか、そういうのもやっていますし、近くの園同士のそういう交流みたいなのを結構やっていますので、そういう意味では水準を上げるようにしています。 また、千代田区の場合は、認可保育園は当然どこでも公立と私立は同じ金額で、で、千代田区の場合、多分認可保育園の金額が多分全国で一番安いはずなんです。で、23区間で最後に統一基準を出したのが何十年か前で、そのとき以来ほとんど上げていませんから、認可保育料がまず安いと。その中で、私立も金額は一緒ですけども、認証とか未認可の場合に行った場合は、通常、認証とか未認可とかに行った場合というのは、通常年収とか関係なく、一律だと、8万とか、場合によっては10万とか高い金額を取ったりしますよね。千代田区の場合は、認可保育園に入れたとしたらまず幾らなのかという計算をして、仮にその計算で5,000円だとして、未認可が仮に10万円だったとする。そうすると、まず5,000円とるべきところをさらに2割安くして、公立に入れなかったんだからさらに2割安くしましょうということで、認可だと入れる金額の8掛け、例えば5,000円だったら4,000円です。それでじゃあ10万円ですよといったら残りその差額は全部区が持ちますよといった場合には、今言ったように9万6,000円ですか、つまり未認可の金額と本来認可で入れる金額の8掛けの金額の差額は千代田区で全額持ちますとやっていますので、千代田区の場合は、未認可に行ったとしても、認可保育園に入るよりも安い保育料と。 だから、通常だと何が何でも認可保育園にというのが一般の流れなんですけど、千代田区の中で1園、未認可だったのが認可にしたという園が1園あるんですけど、そのとき保護者のほうから、認可にするのを反</p>

<p>湯浅委員 出雲分科会長 湯浅委員 出雲分科会長</p>	<p>対運動が一部起きました。というのは、認可にすると、千代田区は値段が上がっちゃいますからという、千代田区ならではのそういう現象もあります。</p> <p>なので、千代田の場合は金額的には認可に入れないほうが保育料は安い。で、なおかつ千代田区外、その人が千代田区で入れなかった場合に、港区だろうが、世田谷区であろうが、どこかの未認可に入っても同じようなことを提供しますから、その人がどこかで千代田区にはもう未認可はないと。どこでもいいから区外の未認可に入れたらその差額は全部千代田区で持ちますという制度をとっております。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>わかりました。学童をいいですか。</p> <p>はい。どうぞ。</p> <p>お伺いしたかったのは、学童をやっているというのはわかったんですけど、今、学童は、遊んでばかりいるというところとちょっとあれですけど、生活習慣を身につけさせるようなものが多いので、少し、何というんでしょう……</p>
<p>大矢委員 出雲分科会長 大矢委員</p>	<p>勉強とかですか。</p> <p>レベルを上げてほしいといたら、変な言い方ですけど。</p> <p>学校内学童でまず言いますと、これ、やはり文部科学省のほうの放課後子ども教室、それから厚生労働省の学童クラブ。で、放課後子ども教室も全学校でやっていますので、放課後子ども教室のほうはまた、例えば神田外語とか、そういうところと提携しまして教えるようなことも提供しています。で、学童クラブの子も、その中で放課後子ども教室のほうに行ったり学童クラブのほうに行ったりと、どちらでも行ったり来たりできるようにしていますので、学校内学童を設置したりしている場合に、放課後子ども教室との兼ね合いの中では、勉強もばっちりできるようにはなっています。場合によっては、じゃあ学校外のところはどうかというのがありますから、その辺のところは、学校外の放課後子ども教室はございませんから、その辺のところはどうするかというのがありますけど、ただ、遊ばせているだけとか、わからないところがあったら教えてもらおうとか、そういう意味もありますけど、がちとした形で教えるというのは学校のほうにある学童クラブでは放課後子ども教室と兼用でやっていますので、今後、放課後子ども教室が使えないところでどうしていくかというのは、ちょっと課題で、あるかもしれないですね。放課後子ども教室は全ての小学校でやっていますので。ただ、これ、今言ったように、放課後子ども教室は文部科学省の所管で、学童クラブは厚生労働省の所管なんで、保育園と幼稚園の関係と一緒に、一緒にならないんですね、これは。一緒になるといいんですけど。</p>
<p>出雲分科会長 大矢委員</p>	<p>それでこの施策には入ってこないわけですね。放課後児童クラブが。学童クラブという、ここに全ての施策が乗るわけじゃないので、放課</p>

出雲分科会長 大矢委員	後子ども教室というのもあります…… ここには入ってはいらぬですね、範囲の中には。 大きな意味で、当然、子どもの中には当然入ってきますね。当然、こ の中に入り切らない事業って多分たくさんあると思うので、放課後子 ども教室には、多分のこのページの中には入っていないだと思います。
出雲分科会長 湯浅委員	わかりました。 よろしいですか。 朝日委員。
朝日委員	確認させていただきたいんですけど、特定園留保者数が200名を超え るといふ、この特定園留保者数というの……
大矢委員 朝日委員 大矢委員	特定の園を、私はこの園じゃなきゃ嫌だよと言って…… ここに行きたいという意味で。 そうじゃなかったら行かないよと。つまり、この園じゃなきゃ行か ないよと言って、それ以外に一切行かない場合には待機児童にはならぬ んですよ。
朝日委員	一切行かない場合なんですね。第一希望じゃなくても行けるといふ人 は入っていないくて、一切行かない人が200名という。
大矢委員 朝日委員	そうですね。もう、ここしか行かないと。 ありがとうございます。 もう一ついいですか。
湯浅委員 朝日委員	はい。 待機児童数の今後の課題のところ「区有地を活用して誘致」とある のですが、活用できるような区有地はあるんですか。
大矢委員	今、既に今年2つ公募をかけるんですけど、1つが中央区との区境に ある公園。 ここを保育園に貸すということで、公園、児童遊園を保育園にするの が1カ所。それからもう一つは、旧和泉橋出張所といまして、和泉橋 出張所が近くに移転した際に、旧和泉橋出張所という建物がまだ残っ ているんですけど、そこを解体して、そこに保育園を建てさせるとい うことで、具体的に区有地を直接貸すというような形で、で、建物の建設費 等は全部10分の10出しますんで、はい、施設建設費。
朝日委員 大矢委員 朝日委員	はい。じゃあ、その、園庭のあるような…… いや、両方とも園庭はないです。 園庭はないタイプになるんですね。わかりました。ありがとうございます。
大矢委員	あと私立でも、富士見、飯田橋にあるグローバルキッズとか、そうい うところに行きますと、これは空がないんで園庭扱いをされてないん ですけど、ものすごく莫大な園庭のような広場、遊び場を持っていると ころが最近ありまして、千代田区内の。だから、私立保育園なんだけ ど、公立の園庭なんかをはるかにしのぐような巨大な遊びのスペースを持

朝日委員 大矢委員	<p>ている。室内なんだけど、山とか丘みたくなっていたり、つくってあったりして、もう度肝を抜くような遊ぶスペースを持った私立保育園もあります。</p>
	<p>そうなんですか。</p>
	<p>もちろん、認可園ですから値段は一緒ですけど、公立の園庭なんかよりもはるかに大きいですね。だから、私立が園庭が一切ないというのは嘘で、あるところはあって、それは園庭という扱いじゃないんですね、室内なんです。ただ、巨大ですよ、本当に。そういうところもあります。</p>
朝日委員 大矢委員	<p>そうですか。</p>
朝日委員	<p>ええ、本当にこれ一旦見に行くと、度肝を抜かれます。</p>
大矢委員	<p>わかりました。飯田橋にあるんですね。ありがとうございます。</p>
湯浅委員	<p>はい。</p>
	<p>そのほかご質問がございますか。</p>
	<p>よろしければ、評価に入らせていただきたいと思います。かなり高評価をいただいておりますが、何かポイントを変更するような点、今のご質問などございますか。よろしいですか。</p>
	<p>(「はい」の声あり)</p>
湯浅委員	<p>はい。それでは、申し訳ございませんが、出雲委員のほうから、評価のご報告をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。</p>
出雲分科会長	<p>はい。私も主な取組みは5です。定員が平成22年以降急激に伸びているというような状況ですから、園を増やす、定員を増やすという方策で施策が展開されているということがよく理解できました。区立と私立の質というものがどういうものかというのはちょっと資料からはわからなかったんですが、今お聞きすると、インフラの問題については一部にはあるけれども、指導などをすることによって解消を図っているということでしたので、5ということにしたいと思います。</p>
	<p>指標については4にしました。待機児童ゼロが継続するというのはいいんですけど、もう一つぐらい指標があってもいいかなというふうに思いまして、例えば、先ほどの指導の件数あるいは指導の内容というようなもので指標がうまくできないかなというふうなことを、つまり私立の質というような観点でできないかなというふうに思いまして。ただ、満足度もとても高いので、4としました。</p>
	<p>今後の方針なんですけど、先ほど、保育のほうには大きな課題はないのかな、現状の政策を続けていくというような感じなのかなと思いましたが、学童とあとは小規模保育などでは課題があるのではないかと思います。</p>
	<p>学童のほうは、他の自治体でも問題になっていると聞きますが、運営する上での目的を明確にしなければ何かならないとか、あと先ほどもおっしゃっていましたが放課後子ども教室のほうとの役割分担が課題になっているというふうに思っています。こちらは、どうかわからないんです</p>

<p>大矢委員 出雲分科会長 大矢委員 出雲分科会長</p>	<p>けど、学童が有料ですね。</p> <p>そうです。</p> <p>放課後子ども教室が無料ですよ。</p> <p>無料です。</p> <p>そういった費用負担の問題もあるし、これらの役割分担を明確にする必要があるという話を他の団体などで聞くので、千代田区でもそういう課題があるのかなというふうなことを少し考えました。</p> <p>あとは小規模保育を増やしていらっしゃるというようなことを見て、すごくいい取組みだと思ったんですが、それがまだ道半ばなのかなというふうな印象を受けたので、3というふうな評価としました。</p> <p>以上です。</p>
<p>湯浅委員</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、朝日委員お願いいたします。</p>
<p>朝日委員</p>	<p>私は、取組みについては4なのですが、保育の量的な確保に重点があつて、その点においては需要が増えている中でゼロ、待機児童ゼロということの有効な取組みになっていると思いました。</p> <p>一方、気になったのが、満足度がもともとアンケートのほうの満足度が31位と、重要度に対して満足度が低いというのがあります。その理由がよくはわからないんですが、区立と私立、認可とそうでないところの環境差であるとか、特定園留保者数にあたりするのかなと。あとは、待機児童ゼロということであるので、千代田区だったら希望のところに入れるという期待値が高いために、その差が出ているのかなと思いました。でも、お聞きしていると、認可じゃないところはむしろ補助をして料金を下げたりしているということなので、どうなのかなと。その理由がわからないんですが、そこが気になったところです。</p> <p>あと、指標に関しても同じなのですが、待機児童ゼロを維持している指標のところは非常に評価できるんですけども、教育・保育サービスの満足度、保護者の割合については、今回、測定がなくて判断できないんですが、満足の要因が個々のマッチングとか質的なことに関して期待が高いのではないかと思います。それに対して施策の成り立ちは、どちらかというところ、質を確保した上での量の供給ということになっていると、もしかしたら、保護者の満足度という指標ではかかっていると、達成が今後もそれほど高くないのかもしれないと考えて、4ということなんです。</p> <p>それから、今後の方針は、マッチングであるとか質的な内容に関して充実を図る方向性というのは適切かと思えます。ですが、このシートの所管外部長による評価と同意なんですけれども、区として確保すべき水準は非常に充実している、し過ぎているぐらいというように感じる一方、それで期待値が高まり過ぎてしまう面もあるのかなというふうな感じまして、区として確保すべき水準に関する検討というのもしていった</p>

<p>湯浅委員</p>	<p>らいいんじゃないかと思います。あと、民間事業者に対して、園庭の融通だとか、そういった施設に関する支援とともに、民間事業者の工夫を促して供給を増やすといったインセンティブの観点というのが、何か取組みはあるかもしれないんですけど、読み取れなかったので、そういう観点が必要じゃないかなと思いました。</p> <p>以上です。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、村上委員、お願いいたします。</p>
<p>村上委員</p>	<p>はい。私は教育委員会で2年ほど外部評価委員をさせていただいて、学童クラブとかも見に行ったことがあります。取組みとしては、区としてはできることはかなりやっているのではないかなと思ったので、これは5点でしょうという感じがしました。今後も続けていけるものは続けていくということが必要かなと思っています。</p> <p>指標についてなんですけれども、先ほどありましたように、2つありますがもう一つぐらいあってもいいかなと思っていて、それは千代田区の今後の施策の方向性に関わるのですけれども、つまり認可園を増やして認可園入園率を上げていくのか——認可園入園率は今3分の2ぐらいとお聞きしているのですけど、もうちょっと高いですかね。</p>
<p>大矢委員</p> <p>村上委員</p>	<p>いや、そんなに高くないですね。</p> <p>はい。ですので、戦略として認可園に入れる子どもを増やしていった質を確保するのか、あるいは認可外とか認証を使って量を増やしていくが、そこへの質の確保ということを中心に置いて、質を上げていく、量と質を確保していくのかというのが、これは区の方向性としてどちらをとるかという問題があると思うんですけど。</p>
<p>大矢委員</p> <p>村上委員</p>	<p>今後の方針としては、認可園を増やすという方針は出しています。</p> <p>そうすると、例えば認可園入園率を数値に入れたほうがいいのではないかと。あるいは両方、認可外と認証の質の確保という指標を両方、何かあってもいいのかなというふうに思ったのですけれども。</p>
<p>大矢委員</p>	<p>千代田区の場合、3年前に保育の全体像をつくったときに、私立とか、あるいは認証とか、その辺のところの差をなくすように、条例の中で認可外の認証とかも同じようにするんだというのをうたっているの、区としては、認証は東京都の制度ですけども、認証保育園と認可保育園というのを、差を設けるなというトップの方針がありまして。ですから、その辺も、認証じゃだめだよという考えは区は持っていないで、認証も認可も同じなんだよという扱いではいるのですけど。ただ、方針として、今後認可を増やしていくというふうな方向では考えています。</p>
<p>村上委員</p>	<p>どちらか、あるいは両方か、何か指標にあってもいいのかなというのは思いました。</p> <p>あと、待機児童はもちろん定義に関わってくるので、時系列に比較可能な形の定義に……</p>

<p>大矢委員 村上委員 大矢委員</p>	<p>厚労省基準で一応していますので。 わかりました。 今後、厚労省基準がさらに変わってくると、それに合わせてうちの待機児童の数も変わるかもしれないです。これは厚労省基準が変わると、全国、劇的に数が変わっちゃう可能性がありますから。</p>
<p>村上委員</p>	<p>これは難しいところで、地域間の比較みたいなのところもあって、千代田区だけ独自の定義をとると、ほかの区とまたずれてきたりするので、その点については承知いたしました。指標については、追加があってもいいかなというのが4点とした理由です。 今後の方針ですけれども、認可を増やしていく方針ということでしたらそれはそれでいいと思うんですけれども、やはり認証と認可外の保育の質ということをどういうふうに確保していくかということ、もう少し監査とか評価とかみたいなことがこの中にあっても、実際されていると思うんですけど、この施策の全体像の中にあってもいいのかなということをおもいました。</p>
<p>大矢委員</p>	<p>それともう一つは、ちょっと細かい話ですけど、保育料は見たところ安いんですけども、これは一番上の所得階層にかなりの人が張りついているんじゃないかなということをおもいました。文京区は、一番上の階層に張りついている人が多くなったので、さらに高所得層の区分を設けて保育料を上げるということをしていたと思うのですが。例えばそういうふうにもう少し階層を細かくして、高所得層の人からもう少し保育料をいただいて、その分を学童クラブとか、認証とか認可外の質の確保に回すとか、検討の余地があるのではないのでしょうか。一番上が5万7,500円で確かに安いなと思ったんですけど、もうちょっといただけるところからはいただいて、ほかに回すということも考えられる……</p>
<p>村上委員</p>	<p>今のところ、高所得者にも低所得者にも優しい千代田区でやっています。 それは施策の選択なので、そういう方針をとるのか、あるいはもう少しいただいて、ほかの施策の充実にも充てるのかということところは……</p>
<p>大矢委員</p>	<p>保育料は確かに見直しがずっとされていけませんので、保育料の見直しというのはあれですね。ただ、この作業を結構やると、また結構大変な作業なので、いずれ、保育料に限らず、区のいろんな使用料等見直しの中の一環として、保育料単独じゃなくて、全体として区が使用料だとか、そういうものをどういうふうにするのかということの中で、保育料も見直すのかどうなのかという、ここだけ単独というよりも、区全体の施策の中で考えていきたいなとは思っていますけれども。</p>
<p>村上委員</p>	<p>あともう一点だけ。10年後を考えたときに、今、就学前教育と保育は幼児教育、保育というのにかなり重点を置いているんですが、小学校以降に子どもを持っている家庭が定住しやすいということを考えると、学童クラブの充実もそうですし、あと、この22番の施策からは外れてしま</p>

	<p>うかもしれないですけども、やっぱり子どもがいると広い家を持たないといけないのですが、千代田区は家賃が高くて、なかなか難しくて外に出ちゃうというケースがあると思うので、例えば住宅政策の面で、もう少し大きな子どもさんを持った家庭が住みやすい、経済的な負担がそれほど大きくならないようなというふうな、住宅とかも含めた全体の小学校以降の子育て政策ということ、10年後ということ踏まえるともう少しあってもいいのかなというふうに思いました。</p>
湯浅委員	<p>以上です。</p>
	<p>はい。ありがとうございます。</p>
清水委員	<p>それでは、清水委員、よろしくお願いいたします。</p>
	<p>はい。主な取組みは、先生方おっしゃっているとおり相当やっているとしましたので、5。</p>
	<p>指標は、朝日先生がおっしゃったのと私は同じで、やっぱりこれだけやっっていながらにして発射台の、82%、満足度というのがむしろ気になるところだなと。今回の現状値が書かれていないので何とも言えないんですけども、アンケートの結果でも「やや不満」「不満」という方が結構いらっしゃるといのは、その理由を調べるというのが満足度につながる、直結することかなという気はしています。</p>
	<p>それから、今後の方針ですけど、確かにゼロは継続をしているんですけど、またここにも書いていますけど、兄弟姉妹同じ保育園というのはもちろんなんですけど、自宅からあまり遠くない場所での入園が可能に現実的になっていけばさらにいいのかなという気はしております。</p>
	<p>その満足度に絡む話ではあるんですけど、ほかの自治体と比較をして、現実的に厚生労働省基準でゼロだけでも、実際には例えばベビーシッターをお願いをしなければいけないとか、あるいは神田に住んでいながら麹町の保育園に預けなければいけないとか、そういう状況をどう捉えるかというのが人によって、考え方に幅があるのかなと。ほかの自治体に比べたら預ける場所があるだけでも、いや、千代田区はいいじゃないと捉えるのか、あるいは神田に住んでいながらにして麹町に行かなくちゃいけないのよと捉えるのか、それは人によってさまざまなかもしれないんです。そこはもしかしたら、満足度にももしかしたらつながっている、数字を低く下げている、つながっている話なのかなという気もしないでもないんですけど、ちょっとそこは調べてみなきゃわからないかなと。そんなところで点数をつけました。</p>
湯浅委員	<p>はい。ありがとうございます。</p>
	<p>では、松本委員、よろしくお願いいたします。</p>
松本委員	<p>はい。主な取組みについては、待機児童ゼロ対策と、あと民間事業者支援のうちの学童クラブについては5をつけていいような内容だと思いますけれども、民間事業者の保育園のほうの支援については、代替園庭、一応指定をしたり確保はしていますけども、公園の環境整備という</p>

	<p>ことで、喫煙対策について、子ども部として、もっと積極的にほかの部に働きかけるとか、そこら辺に力を入れたほうがいいんじゃないかなということで、総合的には4にさせてもらいました。</p> <p>指標については、もちろん待機児童ゼロというのはそれだけであれば5点なんでしょうけど、やはり保護者の満足度という部分が、これ5年に1回しかとれない指標というのは、この基本計画の改定の際には役に立つのかもしれないんですけど、やっぱり毎年の施策の進捗度を見るという意味では、5年に一度しかとれない調査を指標にするというのは、今後の改定の際にでも改めたほうがいいんじゃないかなということで、4にさせてもらいました。</p> <p>今後の方針について言いますと、保育園の待機児童ゼロ、あるいは学童クラブの待機児童ゼロも、非常に短期的な対応に追われている印象がありまして、人口推計に基づいてもう少し中長期的な方針を持つ必要があるんじゃないかなということで、3にさせてもらいました。</p> <p>以上です。</p>
湯浅委員	<p>はい。ありがとうございます。</p>
	<p>皆様に高評価をいただいているところでありますが、今後の方針のところは、皆様がレベルが高いものがあって、より上げるというのは難しいというような状況もあるというご意見もいただいています。</p> <p>そういったことも含めまして、何か補足説明や、また今のご報告の中でご質問等、あわせてあればお願いしたいと思います。</p>
朝日委員	<p>朝日委員。</p>
	<p>先ほど村上先生のほうから、未就学児から小学生になるときに転出となるのは住宅事情の影響でないかと。これは、どの程度のものなのでしょうか。</p> <p>私もそれが気になって、連携があるといいとは思いますが、未就学児に対する補助が充実しているだけにどうかなと。</p>
大矢委員	<p>前は保育園とかも目立っていたんですけど、現在、小学校のほうが、千代田区はかつて統廃合をして、14校あったものが今8校になっていますけど、人口が増えていく中では、乳幼児だけじゃなくて小学生も増えていまして、で、小学校の学級数が、ぐい、ぐい、ぐいと伸びていまして、今後の人口推計でも増えていきまして、その学級増にどう対応していくのかというのは、むしろ千代田区だけじゃなくて、都心区はもしかしたら同じような悩みを抱えていますけど、2学級だったところが3学級になってきて、3学級で足りるのかみたいのところも出そうな勢いもありまして。確かに、もう、新しくできたマンション、多くできていますから、それを実際に買っているような人が多いので、そこは増えていきますね。あと、一時的な施策としては、何だっけ、親元近居とか、あれは何年ぐらいいられたんだっけ。</p>
松本委員	<p>7年だっけ。</p>

大矢委員	<p>とか、そういう一時的な区の施策として、いつときそういう、7年間なら親元に通う間は、その金額を幾ら補助するみたいな、そういう期間限定的な制度もありましたけど、今回の人口が増加しているところは、特にうちが区立住宅、区営住宅とかを増やしているというわけではなくて、いわゆる普通に民間が建てたマンションに普通に買って入ってくるというような状況ですので、そのまんま小学校の人口も増えているような状況になっています。</p>
朝日委員	<p>小学校から入ってきているというのではなくて、もっと前から入ってきて、そのまま入ってくる人も増えていると。</p>
大矢委員 朝日委員 湯浅委員	<p>どこからでも入ってくるという、乳幼児からでも、小学校からでも。なるほど。わかりました。ありがとうございます。</p> <p>これは、前回のほかの分科会でも少しお話が出たりしたのですが、千代田区の移動人口として、例えば平成27年度ですと、転入が8,272件で、転出が6,592件。平成26年度が、転入が8,799件、転出が6,160件と。ちなみに、平成18年は、転入が5,865件、転出が4,806件。</p> <p>以前からこの異動はかなり動きが多かったのですが、件数もそれに従って増え始めている。それに伴って増減の差が大きくなって、その分が人口の増加につながっているというようなところもございます。</p>
朝日委員	<p>年齢別、世代別というのは、まだ調査し切れていませんので、今後どういった世代が入って、どのくらいで抜けてしまうのかというのは分析していきたいと考えています。</p> <p>他区の話で、充実した未就学保育の体制があるので、そこは多いんだけど、小学校に上がるときに抜けていってしまうという話を聞いて、そここのところが、投資というか、きちんと定住につなげるような要素があるのにもったいないなと思ったので、そここのところをお聞きしました。</p>
大矢委員	<p>今のご質疑は、当然、千代田区の、さっき言った保育料なんかにしたって、高額の所得者が入ってきてても、ほぼ認可に入れなかったとしても、ああいう金額で行けますから……</p>
朝日委員 大矢委員	<p>そうですね。</p> <p>その恩恵をフルに使って出るということは当然あると思うんですけど、ただ、そこでまた出ないようにするのは、教育担当部長が控えていますけれども、千代田区の小学校、中学校、中等教育学校がいかに魅力のある学校であれば、当然そのまま千代田の学校に行くことが、かつてのものがいいかどうかはわかりませんが、昔、番町・麴町地域は東大にと言われた時代があったように、千代田の小学校と中学校はどういうレベルで、どういう環境で、どんな人間教育をしている——それは九段中等教育学校も含めてですけども、その千代田のまさに学校がどれだけ魅力があるかによっては、当然このまま千代田の小学校、中学校に行こうという人が増えてくれば、その人たちは単に一過性ではなくということに、昔は、逆に、いわば千代田の小学校、中学校は、今でもあると思</p>

朝日委員 湯浅委員	うんですけど、千代田の小学校、中学校に入ろうというのでマンションにみんな入ってきたわけですから。越境の人もいたけれども、実際に番町小に入るんだとって、番町のマンションを買うような人がたくさんいたわけですから。
朝日委員 大矢委員 湯浅委員	なるほど、わかりました。ありがとうございます。 先ほど子ども部長からの7年かなというような数字のところですが、確認したところ5年以上居住する親がいるということでございました。 そうなんですか。近居。はい。 5年以上親がいたら何年間……親元近居の補助は。 8年目までが補助期間ということでございます。 では、そのほか評価に関するご質問がなければ、分科会としての評価を決定させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。
出雲分科会長 湯浅委員 出雲分科会長	1点いいですか。 はい、どうぞ。 東京都全体では待機児童が多いわけなんですけど、千代田区が保育に力を入れているとか、待機児童がいないことが、知れ渡ってないという感じがするんですけど、それは東京では知れ渡っているんですか。
大矢委員	新聞なんかで待機児童数ゼロ堅持とか、あと23区の待機児童とあったときに……
出雲分科会長 大矢委員	上に来ていて…… 当然ゼロと書いてあるんで、それを見て入ってくるという人は当然いますね。
出雲分科会長 大矢委員	いるわけですね。 はい。ただ、待機児童ゼロであり入ってこられちゃっても、こちらも綱渡りなんで、ゼロと言っている、五、六年前に1回ゼロじゃなかったのと、近々では来年の4月がちょっと黄色信号が灯っているんですけども。というふうに、待機児童ゼロを堅持するというのは、かなり大変ですね。
出雲分科会長 大矢委員	難しい。ということは、ちょっと控えめに宣伝しているという感じですか。急に増えても大変なので。 いや、特に待機児童ゼロですよとって、うちは待機児童がいませんから来てくださいなんていうことは当然言わないですよ。そんなことをしたら……。だから、宣伝しなくとも多分待機児童ゼロは多分保護者の皆さんって大体わかっているんで、じゃあ千代田区が待機児童ゼロで、じゃあ千代田区に住めるのかとか、そういう問題もありますよね。 じゃあ千代田区に住むといたら千代田区のマンションは幾らなんだとか、でも、保育料との関係でいったら、計算して、周辺区で例えばマンションを買って、保育料を幾ら払っている場合と、千代田区で認可保育園が入れなくても、認可より安い金額なんだからマンションとのローンを払うときに、もしかしたら千代田区に買って別になんか高くない

<p>出雲分科会長 大矢委員</p>	<p>って計算した人がいれば千代田区に来るかもしれないし、そこは個々の人が計算しながらたたくんじゃないんですかね。あるいは、千代田区の場所に住むということが通勤時間がほとんどかからなくて、それをさらにとるという人もいるだろうし、都会は嫌だという人もいるでしょうし。だからそこは個々の選択ではあると思いますけど、ただ、待機児童ゼロだと言って来たのに、希望した認可園に入れられないじゃないとか、そういうクレームは当然来ますよ。</p>
<p>出雲分科会長 湯浅委員</p>	<p>確かに。 ゼロだというから来たのにと。ゼロの定義が広く区民や国民というか、待機児童ゼロとは何なのかというのは知れ渡っていないところがあるんですよ。</p>
<p>出雲分科会長 湯浅委員</p>	<p>なるほど。 よろしいでしょうか。</p>
<p>出雲分科会長</p>	<p>はい。 分科会としての取りまとめを分科会長のほうからお願いしたいと思います。</p>
<p>湯浅委員</p>	<p>はい。ありがとうございます。 主な取組みについては、皆さん基本的には高評価というようにことだったと思います。一部、私立の問題ですか、民間の問題のほうで少しのマイナスがあるんだと思うんですけど、おおむね高評価だったと思います。 指標のほう皆さん4ということで、これは、私などは、もう少し数、指標が少ないというようなことを問題にしましたけど、満足度のことを気にされているという方もいらっしゃいました。満足度は比較的高いかなと思ったんですけど、やはりやっているサービスの量からするとなお満足度が低いところもあるんじゃないかというふうなお話だったと思います。 今後の方針については、取組みよりは少し低めになっているんですが、それぞれに課題を指摘していらっしゃいました。民間事業者のさらなる取組みを求める指摘ですとか、あと保育料の問題ですとか、私は学童の問題などを指摘させていただいたところでした。</p>
<p>湯浅委員</p>	<p>合計で、23、20、17ということで60点、B評価ということになったかと思えます。 よろしいでしょうか、皆様。 (「はい」の声あり) はい。それでは、こちらで分科会としての意見の取りまとめとしたいと思います。 (小川委員入室)</p>

(2) 施策の目標27

湯浅委員	<p>続きまして施策の目標27についての評価に入りたいと思いますが、ここで関連部長の教育担当部長、こちらでご同席という形になります。</p>
小川委員	<p>よろしく申し上げます。</p>
湯浅委員	<p>よろしくお願いたします。</p>
大矢委員	<p>何か区民アンケートのこの満足度って、普通の抽出した区民だよな。</p>
湯浅委員	<p>はい。抽出した区民です。</p>
大矢委員	<p>だから普通の区民だよな。だから保育園に預けているとか全然関係なくやっている。一般論としては、保育園の施策って何か足りていないんじゃないかと普通にみんなが思っていて、千代田区の保育園のことを直接知らない人からすると、きっとみんなこの辺はあまりやってないんだろうみたいな解釈される可能性もあるのかなという気がします。</p>
湯浅委員	<p>あと、公立、私立という話がさっきちょっと終わっちゃったんですけど、結構ほかのほうに行くと、公立が全然ないところって結構ありますよね、私立だけというところが。だから、そういう意味じゃ、公立もあるとか、私立しかないというところが結構多いというのは。</p>
大矢委員	<p>以前、資料としてお配りさせていただきました、区の施策に関するアンケート概要というようなものが皆様の資料でお配りをさせていただいておりますが、施策に関するアンケートの中で、クロス集計しているものがありますので、分析はこちらをもとにできるところもあるということもございます。今後検討させていただきたいと思います。</p>
湯浅委員	<p>それでは、早速施策の目標27につきましての評価に入らせていただきます。</p>
大矢委員	<p>まず所管部長の子ども部長よりご説明をよろしくお願いたします。</p>
湯浅委員	<p>はい。これも、じゃあ質問に対する答えからでいいですか。</p>
大矢委員	<p>はい。</p>
湯浅委員	<p>はい。じゃあ私のほうと小川部長のほう、両方ありますけど、私のほうの質問と答えのほうから。</p>
大矢委員	<p>児童の生徒が、登下校の要員配置の基準、インフラ整備で対応できる箇所もあるのではないかと、保護者からの評価は。</p>
湯浅委員	<p>特に、登下校の配置基準はございません。各学校・施設の判断により配置しています。土曜授業の開始や九段小学校の仮校舎への移転に対応して、見守り体制を拡充しているところでございます。</p>
大矢委員	<p>インフラ整備については、小学校の通学路の安全確保のため、平成24年に関係機関等と連携し、緊急合同点検を実施し、対応が必要な54カ所について平成27年度までに対応を完了しています。</p>
湯浅委員	<p>保護者からの評価は特に受けていませんけど、配置に関しては保護者会で要望が寄せされた場合は対応できる範囲で検討いたします。</p>
大矢委員	<p>あと、プレーリーダー。これは遊び場のほうですけど、プレーリーダーを今後も安定的に確保できるのかということに関しまして、プレーリ</p>

出雲分科会長
大矢委員

リーダーは区内大学のボランティアサークル等を取りまとめている一般社団法人D&ANetworksという団体に事業委託して大学生を派遣してもらっております、現在、プレーリーダーを配置している遊び場7カ所については今後も継続して派遣してもらうことが可能です。また、今後もし遊び場事業が拡大するようなことがあっても、当面の対応は可能との回答をもらっております。

次に、指標のほうで、遊び場の確保などは指標とならないんじゃないかと。指標とならないか。

なるのではないかというふうに。

なるのではないかですね。子ども110番の活動は指標とならないか。パトロールはよく見かけることがあるのではないかと思うが、「やや不満」が一定数いるところを見ると、施策と取組みの整合性がついていないんじゃないかということで、遊び場のほう、区立小学校の各学校区域に1カ所ずつ、計8カ所での実施が当面の目標でありましたが、今年度、やっとその目標が達成されました。今後も遊び場の確保に努めていきますけど、区的环境として、そもそも遊び場として機能する公園等が限られていること。公園のほか廃校となった学校の校庭を暫定活用して遊び場を実施しているが、今後、本格活用方法が決まった場合、遊び場として使い続けられるかどうかがわからないことなどから、遊び場の確保を指標とするというのは非常に難しいと。8番目のところも、一番最後に永田町小学校の校庭を指標としたところですが、なかなかそういうところがありませんので、そこが何かで使いますよといったらそこがまたなくなっちゃって、また探さなきゃならないみたいなどころがありますんで、そう簡単に千代田区の中で見つけられないというところがあります。

それから、子ども110番の活動なんですけど、子ども110番の家の加入件数を指標とすることも考えられるんですけど、これが、千代田区の場合、どんどん再開発すると、オートロックのマンションがどんどん増えていまして、子どもがいざというときに駆け込める店舗や住宅がどんどん減少しています。で、その結果、どういうところで増やしているかというと、郵便局、セブンイレブンの協力などにより新規開拓をしているんですけども、新規開拓でどんどん店はやっていくんですけど、そもそも再開発とかあるいはマンションが建て替わったりしてオートロックで全然、中に飛び込めないというようなところで減少の幅が大きくて、新規開拓の努力をしても、オートロックのマンションが増えてくるほうが多くて、ちょっとここが悩みどころなんですけども、そこをちょっと指標として今とることができないという状況になっております。

本施策に対して「やや不満」と感じる区民が13.2%いるという結果ですけど、安全確保の取組みをどこまで進めても100%満足という結果は得

られないと認識しております。今後、区と家庭、学校、地域、事業者の連携に、子どもが安全で安心して遊べる場所を整えていく。子どもの通学路に関しましては、前に学校とPTAとか、地域が全部協力してどこが危ないかというのを全部各学校ごとに、ここが危ないんじゃないかというポイントを、交通だけじゃなくて、声かけその他も——今日も子ども110番で、すぐ誰々が声かけられたとか書いてありましたけど、通知が来ていますけども、取組みとしては、学校とそれから地域と保護者という三者が一体となって取組むということを基本としていまして、安心・安全一斉パトロールだとか、いろいろしておりますので、一応登下校の際のそういうものには一応しておりますけども、先ほど言いましたように、110番の加入件数などというのはある程度の限界があるのかなというふうに思っております。

それから、今後の方針の中で、子どもの交通教育などとは別に、別の施策の課題、遊び、登下校とも子どもが自立的にできる部分を増やしていくべきではないか。事業者はどのように関わることができるかということなんですけど、子どもの交通安全教育は各学校において実施しており、通学路における見守りスポットは限られていることから、見守り要員が配置されていない場所において子ども自身が安全に配慮しながら登下校ができるよう、学校において交通ルール等を指導しております。子どもの遊び場事業については、プレーリーダーがいなくてもボール遊び等ができることが望ましいのですが、プレーリーダーによる見守りや遊びの誘導を必要とする声も多く、実現の可能性について検討を続けているところです。なお、富士見のこどもひろばだけ、これは衆議院九段議員宿舎跡地ですけど、非常に広い土地で、囲まれている場所なのでほかの人が入ってこない。こういう安全が確保できる遊び場の専用施設なので、ここだけはほかとのトラブルがないから、プレーリーダーを配置していません。ですから、こういう優良な場所が確保できたような場合にはプレーリーダーの配置をしないこともあり得ます。

あと、パトロールには、町会、商店会といった地域の方々も参加していますし、通学路沿いの店舗や住宅には子ども110番の家に参加していただいております。通学路上に見守り要員として配置しているシルバー人材センターの職員も、地域、千代田区の高齢者であり、さまざまな地域のマンパワーを活用しながら、施策は推進している状況であります。

子どもの遊び場基本条例というのを千代田区では持っておりますけど、区並びに区民及び区内事業者等の責務として、子どもが外遊びすることの必要性及び重要性を理解し、区が実施する施策に協力するよう努めるものとするというふうに一応は定めております。ですので、今後は、なお一層事業者の協力を求めていく必要があるのかなというふうに思っています。

オートロックのマンションの問題は、子どもの安全の話だけではな

<p>小川委員 湯浅委員 小川委員</p>	<p>く、その他もろもろのことにおいても、地域のつながりとかコミュニティとかそういうことも含めて、何というんですかね、全然入れない、防犯上はいいんでしょうけど、オートロックのマンション問題というのはいろいろな問題があるので、今後その辺についてはどうしていくのかなというのは、子ども部だけの話ではなく、区全体の話かなとは思っています。</p> <p>それ以外の質疑のところは。</p> <p>はい。じゃあ、よろしいですか。</p> <p>引き続きよろしくお願いします。</p> <p>では、私から1点だけございまして、のびのびという点から九段小・幼稚園が設計されているとすればどのような点かといったご質問があったかと思えます。</p> <p>これに関して言えばさまざまな点があるわけでございますけれども、一言で申し上げるならば、総床面積を増やして、その中で今日的な教育課題に対応できるような設計となっているということでございます。</p> <p>少し具体的に申し上げますと、例えば普通教室で言えば、12学級を基本とした18学級まで対応できるような諸室の数としたことであったり、あるいは従前の小学校にはなかったメディアルームであったり、校内通級であったり、アフタースクールであったり、幼稚園に関しましても、新たに預かり保育の部屋を設けたりということがございます。また、体育館やプールに関しましても、九段小については課題がございましたので、体育館も簡単に言えば床面積を増やしたということと、プールに関しては校外、学校の外にありましたので、学校の敷地の中、しかも建物の中に取り込んだといったようなことを設計の中で配慮して、子どもたちにできるだけいい、よりよい学習環境が確保できるような設計としたということでございます。</p> <p>概略、以上でございます。</p>
<p>湯浅委員</p>	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>それでは、ただいまのご質問、ご説明並びにその他の事項でご質問などがございましたらお願いしたいと思います。</p>
<p>朝日委員</p>	<p>朝日委員。</p> <p>2点あるんですけど、1つは、聞き逃したかもしれないんですが、遊びの確保のところ、プレーリーダーがいなくても大丈夫なところがあるというのは、ほかの利用者とのトラブルとか、そういった点がプレーリーダーの目的ですか。</p>
<p>大矢委員</p>	<p>ここは子どもの遊び場として借り受けていますので、富士見の衆議院宿舎の跡地というかなり広い土地なんですけど、金網で囲ってあって、人の出入りが自由にできない。つまり、子どもたちだけしか入れない。なので、ほかの人たちは一切使えないので、ここは特にプレーリーダーは。ただ、ほかの公園ですと、ほかの人が、お年寄りや小さなお子さん</p>

	<p>が来たりしたときに、ボール遊びとかをしていると、ボールが飛んだりとかいろいろありますので、この場所はそういうことがないので、特にプレーリーダーを置かなくても大丈夫ですよという貴重な土地だということです。あまりそういうのはない、そういう土地って、めったにないですから。</p>
朝日委員	<p>それは、狭さというか、そういう遊び場が少ないことに起因することでしょうか。多分郊外のほうでも、近隣の住民がうるさがるとか、公園の利用とか、犬がどうか、ボール遊びが危ないとか、昔だともうちょっと鷹揚だったことで、利用者同士のトラブル的なことが問題になっているんですけど、それが特に場所も限られているからという理解でよろしいんですか。</p>
大矢委員	<p>そうですね。千代田区の場合も多くの児童公園とかなんかで、野球だとかなんかはたしか禁止になっていると思うんですけども、それは、ほかの人との事故とか、そういう防止のためであって、そういうのがなくて確保できるところとか、あるいはボール遊びとか、そういう子どもたちが普通の公園じゃできない場所の確保ということで遊び場を確保しているわけなので。なので、今言ったように永田町小学校の校庭とか、ある程度遊び場の確保というのは、広いところを確保してボール遊びができるところというふうなところを考えていますので。</p>
朝日委員	<p>じゃあ、人の配置というのは、場所の問題もあるけれども……</p>
大矢委員	<p>ありますね。</p>
朝日委員	<p>人の配置も半ば必須。トラブルとかそういうことを考えると、安全の面で……</p>
大矢委員	<p>必要だなと思います、安全上は。はい。</p>
朝日委員	<p>わかりました。</p>
	<p>あと、もう一点ですけども、今最後にご説明いただいたのびのびという観点の施設設計の件なんですけど、ここは地域の方への施設開放を前提とされているということもあるんですか。</p>
小川委員	<p>そうですね、はい。これは既存の学校でもそうなんですけれども、地域に開放するというのは当然、諸室ですよ、特別教室であったり、体育館であったり、校庭であったりということもございますし、当然、今日的な学校となれば防災機能というものも当然兼ね備えてこななければいけませんので、一定数の防災倉庫であったり、その配置も含めて考えたいというところがございます。</p>
朝日委員	<p>地域に開かれる点も強化されたというふうに理解してよいでしょうか。</p>
小川委員	<p>そうですね。基本、学校というのは学校の用途以外、要は使っているとき以外は開放するという現在の流れがありつつも、以前の学校と違ってきているのが、要は地域に開かれた学校でありながらもセキュリティにもきちんと配慮するというところがございますので、その辺りの動線</p>

朝日委員	も含めて対応しているというのがちょっと新たな視点かと思います。
湯浅委員	わかりました。ありがとうございます。
出雲分科会長	そのほかご質問などございますでしょうか。
湯浅委員	いいですか。
出雲分科会長	はい。出雲委員。
大矢委員	登下校の話なんですけど、こちらは集団登校ですよ。
小川委員	集団登校しているの。
出雲分科会長	これは、日によってとか学校によって、ちょっと違いがございます。
小川委員	していない学校もあるということ。
出雲分科会長	基本は、千代田区の場合には、そういった集団でやっている形というのは多くないですね。
小川委員	少数なわけですね。
出雲分科会長	はい。日にちを決めて、わざと一緒に歩いて帰ってもらうようなことを試している学校はあるんですけども、基本は少ないです。
小川委員	はい。それはそれでいいという感じなんですか。それとも、何か集団登校にしたいというような考えなんですか。
出雲分科会長	そうですね。とりわけ学校に——集団下校じゃない。集団登校ですよ、今おっしゃっているのは。
小川委員	通常は、登校は集団だけど、帰りはばらばらなことが多いですよ。
出雲分科会長	そうですね。で、特に帰りは、今、それこそ学童だったり、アフタースクールだったり、習い事であったり、ちょっとさまざまな過ごし方のちょっと違いが出てきているので、必ずしも一律一緒に行けないというような事情もございます。朝に関しては、特段そういうことを推奨はしていないんですけども、現状では推奨していない。
大矢委員	昔はしていましたよ。
出雲分科会長	そうですね、きっと。
大矢委員	お尋ねしたいのは、配置の問題で、学校ごとに決めているって話だったんですけど、集団登校しているんだったら、配置も、ある程度ポイント、ポイントに絞ってできるような感じがしたんですけど、個人で登校という話なのであれば、割と幅広く配置をしないといけないのかなと思ったんですけど、それは学校ごとに判断されているというような、そういうご説明でしたか。
出雲分科会長	見守りポイントはそうです。
大矢委員	見守りのポイントですよ。漏れとか何かそういうのがない。漏れとか、事件があったりしたことはないですか。
出雲分科会長	事件は、今まで発生していないですね。
大矢委員	ないわけですね。
出雲分科会長	どこどこ小学校で不審者に声をかけられた女の子が逃げてきたとか、そういうことはあります。適度にと言っちゃおかしいんですけど。
大矢委員	ええ。

小川委員	<p>あとは現実的に、例えば、年によって、ある地域の通学をされる子どもたちが多く、例えばどこか特定の町会にマンションが建って、それから通う方が多くなったと。そういう状況を見て、例えば一定の、この横断歩道を渡る子どもが増えたということになれば、当然そういったところに手厚く配置をするということもございますし、今ちょっと子ども部長も言いかけていましたけども、その時々でいろいろトラブルというか、不審者が出たりとかということもございますので、そういったときに配置を変えるとか、あるいはスポットですけれども、青パトロール、24時間365日で回しているものがあるんですけども、そういったものをそういったところに立たせたり、あるいは巡回させたりということ、かなり臨機応変にやっているというのが現実です。</p>
大矢委員	<p>千代田区の場合、地方みたく、ここは人が通らないとか人影がないから危ないとか、そういう場所はあまりないんですよ。大体どこでも人がいますから、深夜でもない限りは。だから、交通安全とか、そういうのをメインにしながらというところだとは思いますが、これ、地方ですと、全然この間は人がいないとか、そういうところがあるんですが、あまりそういうところはないんですけどね。</p> <p>ただ、そういうところも、各学校の見守りポイントというのは、学校と地域と保護者とかが話し合っ、こことこことここだねなんていうふうにやっていますから、一律に我々が決めるよりも、学校が自分たちでどこが見守りポイントになるかというところが決めたほうが、実際に学校の子どもたちですし、自分たちの子どもですから、そういう皆さんが話し合ったほうがより適切な場所になるのかなと。</p> <p>ただ、ポイントって、多分ですけど、それは多ければ多いほどいいんでしょうけど、多分もし仮に限りなく多くしろということになったら、多分保護者を大量に導入するような形になってきて、そうすると、じゃあ両親が働いているのに立つのかみたいな話にもなってくるでしょうしね。やっぱりおのずと、こういうのはどのぐらいが適正なのかというのはありますよね。</p>
湯浅委員	<p>お時間のほうもございますので、そろそろご報告のタイミングとさせていただきます。評価に関わるようなご質問が特になければ進めさせていただきますので、よろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">（「はい」の声あり）</p>
湯浅委員	<p>それでは、また出雲委員のほうから、ご報告をよろしくお願いたします。</p>
出雲分科会長	<p>はい。私はいずれも3にしたんですけども、これは評価が難しいというのがありまして、子どもがのびのびと成長できるみたいなことで、メインのテーマが学校の建設と見守りと遊び場ということなので、施策の大きな目標に対して事業が、何か、あれっ、というような、何というんでしょう。</p>

湯浅委員 出雲分科会長 湯浅委員 出雲分科会長	<p>寄せて集めたようなイメージがあるということですね。</p> <p>そういうような印象が……</p> <p>歯に衣を着せず、ぜひご意見を言っていたいただければ。</p> <p>あったという感じで、評価が難しく3にしたという感じなんです、意味があるというよりは。申し訳ないんですけども。</p> <p>主な取組みについては、プレーリーダーの取組みですとか、登下校の見守りですとかをされている。ものすごいきめ細かく配置されていたりということはあるのかもしれないんですけど、一般的な取組みなのかなというふうに思ったわけなんです。ものすごく網目のようになっていたらちょっとわからないんですけど。で、この学校の建設というのも、何というんでしょう、すごくいいんですけども、建物の問題なので、現状ではですけども、それを何かどのように使うかということまで含めてこの施策に貢献するのかなというふうに考えると、ちょっと3ということにしてしまったんです。</p> <p>指標について、これが別の政策と同じ指標になっていて、この事業の施策というものが現状ではないというようなことになっています。ですから、質問の中で遊び場の確保とか、子どもの110番とか、何かしら指標になるんじゃないかというふうに少し考えたという点で、3としました。</p> <p>今後の方針は、どういう方針があるのかと私も少し考えたんですけども、別の施策を展開する必要があるのか、それが具体的にどういう施策なのか。例えばコミュニティ施策のように行くべきなのか、学校との連携というものをより強化するのか、そういうようなことも少し考えたんですけど、私としてはちょっと具体的なアイデアとしては出てきてなくて、地域とか事業者の方とより連携するような方向が、やほりのびのびと成長というようなことなのかなというふうなことで、ちょっと曖昧なんですけど、最後は3ということにしました。</p> <p>以上です。</p>
湯浅委員	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>施策の目標、めざすべき10年後の姿を達成するために、主な取組みとして記載してございますけれども、先ほどこども部長からも説明がありましたが、それ以外にも多くの事務事業をやっていきますと。そういう中で、やはりこの主な取組みとして、大きく出す3つ程度、それぞれ出すと、寄せて集めたようなイメージに思えてしまうのかもしれない。</p>
出雲分科会長 湯浅委員	<p>なるほど。</p> <p>そういう意味では、主な取組みの出し方ですね。大きな施策の目標に行けば行くほど、それぞれがどう関連しているのかというのが見えなくなってしまうというようなことも……</p>
出雲分科会長 湯浅委員	<p>そういう意味合いだと思います。</p> <p>それは、事務局としても、今後……</p>

<p>湯浅委員</p>	<p>この見せ方といいますか、出し方みたいなところは考えさせていただきたいと思います。</p>
<p>朝日委員</p>	<p>それでは、朝日委員、お願いいたします。</p> <p>はい。私も考え方としては似ていまして、施策の目標の安全にのびのびとというところが、時代的にのびのびしようと思うと安全が心配というジレンマにあると思います。安全に配慮し過ぎるとのびのびできないというジレンマがあるので、取組みも評価も難しいなと思ったんですが。</p> <p>最初の取組みに関しては、施設整備に関しては、学校機能を複合化したりとか、安全にというのは、特に財政上の複合化ということではなくて、場所的に制約がある中で、地域コミュニティなどの観点からも安全の観点からもというところを取り入れての方針であるところは進捗しているなと思いました。あと、安全確保についてもシルバー人材センターとかプレーリーダーなど、地域とか団体との連携が進んでいるなと思いました。</p> <p>のびのびのところは気になるんですが、安全管理面から、あと地域とのトラブル対応という観点からは理解できるんですが、一方ののびのびとか発達とかいうことになると、子ども同士のコミュニティの大事さといったことなども気になるなと思って、もともと難しい課題だとは思いつつ、その点があって、4とさせていただきます。</p> <p>あと、指標に関しても、出雲先生と多分重なる問題意識です。指標の進捗自体はあるんですけど、必要条件、十分条件という意味で、指標の設定自体が大きくて、安全・安心のまちづくりという、それが達成されていれば当然この政策の期待するところは達成されているのですが、ここの子ども、児童・生徒がというところが達成されているからといって、この指標が達成されるとは限らないので、やはりもう1段階、指標が欲しいなと思いました。</p> <p>あと進捗を見ても、大きな意味での「安全・安心なまちと思う人」という指標の立て方からいうと、75%まで行くというのは、その他の分野の施策も含めて達成されるものだと思うので、ここだけで評価して75%まで行くかという少し難しそうだなと思って、ここは指標の立て方も入ってしまっているんですけど、3としました。</p> <p>今後の方針については、地域との連携の重視だとか、見守りや遊び場の充実化という方針は適切だと思います。一方、やはりのびのびのところ、現行の取組みの安全の確保が主に委託された大人の管理ということによっているので、地域特性からするといたし方ない面もあるし、ちょっと難しい時代だとは思いますが、本来の地域住民とか地域の周りの人による自立的な環境構築という視点をもうちょっと強化していてもいいのではないかなと。学校施設の活用との連携といったところをもうちょっと強化すべきではないかなという点で、3とさせていただきます。</p>

<p>湯浅委員</p>	<p>ました。</p> <p>以上です。</p>
<p>村上委員</p>	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>それでは、村上委員、お願いいたします。</p> <p>はい。僕はほかの方より結構甘めになっているんですけど、これは、都市部の自治体であることと、千代田区の自治体の規模から考えると、その割にはできることはやっているのではないかという評価で、少し甘めになっています。あと、以前教育委員会の外部評価で神田一橋中学校を見せていただいて、公立中学校でこんなところがあるのかという、すごく整備された学校を見せていただいたので、それで若干甘くなっているかもしれません。</p> <p>まず取組みの点ですけれども、ハード面の整備をきちんと進めているということが一番大きいのではないかと思った理由です。これまでご指摘があったように、確かに目標とかめざすべき10年後の姿から考えてこれらの施策や取組みだけでいいのかというところは確かにあるのかもしれないです。ただ私はいわゆるハード面の耐震対策や学校施設の整備、安全確保、遊び場確保という面から考えると、不十分な面は確かにあるかもしれないですが、いろんな条件から考えると、よくやっているのではないかというふうに判断をしました。</p> <p>指標はこれまでお二人からも出たとおり、やはりこれだけだといろいろな社会経済の変化とか、防犯とかまちづくり施策とかにもかなり影響される指標ですので、何か追加が欲しいなと思いました。遊び場の確保が難しいということであれば、例えば地域との連携について何か指標を設けるであるとか、あとは子どもの安全教育をどれぐらいやっているかということも、今まで継続したものを続けるというのでもいいと。発展させるとか指標を上げるというのではなくても、今までやってきたものをきちっと継続をさせるというのがあってもいいのかなと。今やっている子どもの安全教育みたいなところを、もう少し指標とか今後の方針に入れられないかなということは思いました</p> <p>今後の方針については、遊び場の確保については場所柄制約が大きいと思うので、いたし方ないところはあるかなと思うのですが、もちろん自由に遊ぶということも大事ですが、逆に、何かいろんな体験をさせる機会というか、スポーツ体験をさせる機会であるとか、指導者がリードをするというの、そっちもあってもいいのかもと個人的には思いました。これは子どもの自由に任せるか、ある程度機会をちゃんと設けるかというところは自治体としての考え方はあるかなと思いますが、全体としては子どもの安全教育という視点が少し薄いかなという気がしたので、もう少しそのあたりを入れるということをご検討いただければと思います。</p> <p>以上です。</p>

湯浅委員	<p>はい。</p> <p>では、清水委員、よろしくお願いいたします。</p>
清水委員	<p>はい。主な取組みは5にしてもいいんですけど、村上先生がおっしゃられたように、校庭面積がなかなか十分に確保できないような地域事情の中においてできる限りの努力をしているかなというところで、もろ手を挙げて100点はなかなか、ちょっと難しいかなというところで、若干マイナス1をして4です。でも、ほぼ文句ないかなというところがあります。</p> <p>指標については、これも出雲先生も朝日先生もおっしゃられていましたけど、なかなかこの指標1つで10年後の姿を捉えるというのはなかなか難しい部分があるというのと、64%、65%というのがほぼ横ばいで増えてないというところで、ちょっと3にせざるを得なかったというところなんです。ただ、個人的には、むしろこの数字が、ちょっと何でこんなに低いんだらうというところのほうが気にかかるころです。安全・安心なまちって、この数字の人しか思っていないのかということのほうがむしろ愕然としている状況ですね。</p> <p>一般的に考えて、例えば神田だとか秋葉原だとかって、繁華街で安全じゃないでしょうと一般的に思うのかもしれないんですけど、むしろ郊外の住宅街なんかからすると、むしろ全然安心できるんですけどなというようなところがあったりするんで、そういう、じゃあその30%、35%の人たちというのは、どこについて安全・安心じゃないというふうに考えてらっしゃるのかというのをむしろ聞いてみたいというところかなというふうに思っています。今後の方針もその部分が絡んできて、そう、一緒にしました。</p> <p>あとは、ちょっと委員会が違ったかもしれませんが、前回のところでもあれでしたけど、これだけ区が取組んでいるということ、あるいはほかの村上先生の話じゃないですけど、ほかの自治体と比べていったらもうちょっといいかなみたいなのところも、保護者の方を含めてご理解をいただけたら、もうちょっといろいろな意味で満足感というのは上がるのかなという気はしていますので、区を取組みをいかに区民の人にご理解いただけるかなというところが区政全体の課題の1つかなというふうには思っています。</p>
湯浅委員	<p>はい。ありがとうございます。</p>
松本委員	<p>では、松本委員、よろしくお願いいたします。</p> <p>主な取組みの下から行きますと、子どもの遊び場確保ということについて言うと、経過措置的には今のような遊び場を確保してプレーリーダーを配置してというのは必要だったのかもしれないんですけど、ここのシートの成果と課題のところにも書いてあるように、やはり将来的にはそういう大人のサポートがなくても、子どもたちが自由に外遊びできる環境を目指していきたいということで、ぜひ、その具体的な方針を早</p>

く出してもらいたいなというように思っていますので、今後の方針という点では、そこら辺を、あんまり今の施策にしがみつかないで、もっと自然な形を目指してもらいたいなと思っています。

児童の安全確保という点については、この指標の数値なんですけども、実はこれ「良いか」「普通か」「悪いか」と聞いていて、実は「悪い」という人は6%しかいないんで、「良い」と「普通」を足すと、もう93%が安全みたいな、抽象的な概念で「普通」というのはほぼ、もう「良い」に近いと思っているんで、指標的にはこれはすごくいい数字だと思っています。逆に、「悪い」という人をゼロにしても71%しか行かないみたいなそれぐらいの話なんで、これはそういう意味で指標を4にさせてもらいました。

教育施設の整備に絡めて言うと、今、みらいプロジェクトの評価をしているわけですよ。で、これの前提となるこの計画期間の想定人口というのを見ると、例えば平成27年の学齢期の人口というのは3,300人だったのが、10年後には5,000人に、1,700人以上増えるという、そういう数字。114ページですね。まさに、小・中学校に通う子どもが1,700人以上増えますよということをまず想定して、その上でこの計画をつくっているんですけど、今の取組みというのは、改築時期を迎えた学校を単に建て直しているだけみたいで、本当に1,700人、多分今まではこのペースよりもさらにもっと増えているのが現状ですよ。決してこれが過大な想定じゃなかったという中で、本当に10年後に1,700人も増えた、学校が足りなくなったときに、学校をつくれるだけの場所は、子ども部として、すぐ建てろとは言わないけど、その場所のキープをちゃんと全庁的にしておくということが、僕はまず最初に求められる施策じゃないかなと思って。恐らく麴町地区、神田地区で1カ所ずつぐらいは旧学校用地は、子ども部がいつでも建てられるようにしておくみたいな、そういう中長期的な方針、大きいところをまずつくってもらいたいなということで、やはりそこら辺で3というような感じで、3、4、3で10点です。

以上です。

はい。ありがとうございます。

計画期間の推計人口ですが、全体会の後、委員の皆様には改めて今の国勢調査の結果でお送りさせていただいた資料がございます。この中で、みらいプロジェクトの推計人口には外国人が入っていらっしやらなかったんで、現在の6万人というのは外国人が入っていらっしやるところがあって、それを除いた数でお示しはさせていただいています。それからすると、そんなに差はないのかなというところですよ。

それから、改めて確認ですが、今回の施策評価は、このみらいプロジェクトに定めるこの37の施策の目標、これに対してめざすべき10年後の姿、10年間の進捗を確認するために、今の平成27年度、28年度、2年間で、10年後の姿の2年間の進捗状況の評価いただくというものでござい

湯浅委員

	<p>まして、なかなかその中では、どうしても事務事業評価のほうに行ってしまうたり、施策評価というお話が出てきてしまうのですが、ちょっと指標がわかりにくいですとか、取組みがわかりにくいということもあるもしれないのですが、それを踏まえてぜひ進捗のほうに重点を置いてこれからまた議論をいただきたいと思っております。</p> <p>その他の件に関しまして、何かご質問等ございましたらお願いしたいのですが、いかがでしょうか。お時間もかなり、過ぎてしまっておりますが。</p> <p>どうぞ、出雲委員。</p>
出雲分科会長	<p>ハード事業をどう評価するかというのが多分あると思うんですが、ほかの2つがソフト事業ですので、このハード事業というのは、順次改修をする中で、これが目玉ということなんですかね。この、九段小学校と幼稚園。</p>
大矢委員	<p>九段とお茶の水。これ、千代田区の学校を順次建て替えていますから、九段とお茶の水を建て替えると、あと、もう1校、番町を除いて、次、和泉ともう2巡目に入っているというか、複合施設で建て替えている和泉小学校という複合施設が秋葉原にありますけども、もう何というんですかね、複合施設で建てたのは、この2校をやると、2巡目に入ってくるというような状況になりますので、そういう意味じゃ、ある程度……</p>
出雲分科会長	<p>もう進んできているということですね。</p>
大矢委員	<p>順繰りに建て替えていますので。その下の昌平とかって、あれは幾らかけたんだっけ。</p>
松本委員	<p>80億。</p>
大矢委員	<p>80億だっけ。</p>
松本委員	<p>千代田小学校が60億だから。</p>
出雲分科会長	<p>その際、やっぱり重要視されているのは、防災と交流拠点というようなことですか。</p>
小川委員	<p>いえいえ、あくまでも学校施設ですので、子どもたちの教育環境をより高めるということで、それはやはり今日的な課題に対応できるような施設とするということです。</p>
	<p>で、今おっしゃった2点というのは、学校施設ということで考えれば、副次的な目的としては当然出てくる話ではありますけれども、あくまでも子どもの施設として、子どもたちの教育環境を、なるべく与えられた制約された条件の中で最良のものにしていくということが第一の私は目的、目標ではないかと思えます。</p>
出雲分科会長	<p>ということは、さっきおっしゃっていた教室の広さだとか教育設備ということに力点が置かれているということですね。</p>
小川委員	<p>そうですね。広さの充実イコール機能の充実につながるころも多々あります。そういうこともありますので、まずは与えられた中で最大限</p>

出雲分科会長 湯浅委員	<p>の広さを確保し必要な機能を盛り込んでいくということをやはり主眼に教育施設の整備は行っておりますので。単に、だから、今回も広さを広くしたということだけではなくて、これまでになかった機能を盛り込んでいたり、あるいは動線の次は使い勝手のよさのようなことですよね。そういったことも配慮したりということは、設計の中でいろいろ考えていくべきことだと思っています。</p>
朝日委員	<p>なるほど。 そのほかございますか。 どうぞ、朝日委員。</p>
湯浅委員	<p>指標のところは評価の仕方がやっぱりちょっと気になっていて、今のところ指標の進捗と、あと指標自体の適切、妥当性というのを切り離して考えているんですけど。指標自体がこの施策の進捗を測るには、成果と対応していないなというときに、判断材料が指標のところはなくなってしまふ、取組みはもちろんあるんですけど。そのときに、64から例えば65というのを、そのまま進捗しているというふうに評価できないという気持ちがあるわけですね。もともとの成果に対応していないと判断した場合、指標自体に対する妥当性というのを切り離したつもりで入ってしまっていることもあります。だから、全体会議の話題にはなると思うんですけど、その辺りの考え方を見直す必要があるのかなと思いました。</p>
朝日委員	<p>そうですね。そういったところにつきましては、その他の事項でいろいろご意見は、特に指標の部分ですね、いろいろこれまでの分科会の中でもご意見いただけているところがございますので、一次評価シートの中で、主な取組みの進捗状況、成果と課題でご説明させていただきながら、それをよりわかりやすくするために指標はつくっていますが、なかなか数字やこの項目ではわかりにくいというところで一次評価シートの指標の達成分析に指標と要因と今後の課題、取組み等々書かせていただいています。</p>
湯浅委員	<p>です。ですので、もしこの数字でわかりにくいというところがあれば、それを補足するためにこの指標の達成分析というのがあるのですが、ここでおかつわからないというようなところがございましたら、そういったところは、ご質問の中で、それぞれの所管部長、関連部長にご質問いただいで、その進捗がどれだけであるかというところをご確認いただければというところで進めさせていただいております。申し訳ありません。</p>
朝日委員	<p>そうですね。指標を切り離して評価するということになるのと、取組みは進んでいるなという印象を抱いたとしても、指標として進んでいると書いていいのかどうかという、印象が出てきてしまうんですね。</p>
湯浅委員	<p>そうですね。そういった意味では、採点というのが主観的な部分でお願いしているというところも多分がございます。</p>
朝日委員	<p>そうですね。そうしたら、そこは、解釈のぶれが出てくるということ</p>

湯浅委員	<p>を前提で……</p> <p>そうですね。このめざすべき10年後の姿で、2年後の今はこういうことをやっています。それで10年後これが達成できるかというところでご評価いただくというようなところがございますので。なかなかそこが、非常に行政評価のかなり難しいところです。</p>
朝日委員 清水委員	<p>難しいですよ。</p> <p>評価、そっち側で説明する準備もそれはそれであるんですけど、こっち側の評価するのも……</p>
大矢委員	<p>だから、この指標をまさにつくるときに、昔は、できた橋の数とか、何とかを直した数ってやっていたんだけど、こういうみらいプロジェクトの指標ってそうじゃなくて、道路が、橋が何本できたからみんなが快適に暮らせて満足なんだねというのがその最終だから、橋が何本できたかはその途中の過程であるという話だから、このつくるときに、最後に区民がどうなったか、みんなこういうふうに安心・安全に思うとかなっていっちゃうから、最後にできたからどうなったのといったときに、区民が満足している、していないというそのフェーズなところになっちゃうから、それを、さっきの子どものところもそうですけど、通わせている子どもたち、親にすれば高いけど一般の人にとっては低くなっちゃったりとかというふうに、最後のところが、特に決められた数でやるんじゃないなくて、その上にある、だからどう思っているのという満足度になるから、非常に指標が全てにおいて難しい。</p>
朝日委員 大矢委員 朝日委員 清水委員 湯浅委員 大矢委員 湯浅委員	<p>そうですね。</p> <p>この形で行くのかということ……</p> <p>この施策の寄与度がちょっとわかりにくくなっちゃっていますよね。</p> <p>ちょっと、評価基準に指標があるから、なかなか難しいですよ。</p> <p>その辺りは、全体会のほうで……</p> <p>そうかもしれないね。</p> <p>ご提示いただいて、今は分科会に戻させていただきますが、そろそろ分科会の取りまとめをお願いしたいと思います。</p>
出雲分科会長	<p>評価のポイントを変更される委員の方はいらっしゃいませんか。</p> <p>私、一般的な取組みかと思ったんですが、今お聞きしていると、千代田区の現状からすると充実しているというようなことなので、主な取組みは、4で、お願いします。進捗しているのだと思います。その部分をちょっと。</p>
湯浅委員 松本委員 湯浅委員	<p>そのほか変更される委員の方はいらっしゃいますか。</p> <p>じゃあ、僕も主な取組みは4にして。</p> <p>今話を聞いて、取組みはやっているけれども進捗はしてないじゃないかというようなご意見などもあれば、よろしいですか。</p>
湯浅委員	<p>(「なし」の声あり)</p> <p>では、すみません。分科会長、まとめのほうをお願いできればと思い</p>

出雲分科会長	<p>ます。</p> <p>はい。ありがとうございます。</p> <p>たびたび話に出ていましたけど、安全にのびのびと成長ができる環境を整えるというのが、抽象的で、幅広いな目標というようなイメージがある中で、特に私なんですけど、事業の内容を見ると、整備計画だとか、見守りなどが中心であって、目標に対する事業というのが少なく、拡充が必要なのかなというのが印象だったんですが。そんなこともあって、ちょっと最初は評価が低くなってしまいました。ただ、お聞きしていると、進捗が見られるというような印象を持った方もいらっしゃったかと思ひまして、4点または5点という評価になりました。</p> <p>指標については、もともと指標が少ないので低く評価したという場合と、あとは、現状の指標でも進捗が見られるという意味で恐らく4というような評価になっているんだと思います。3から4ということです。</p> <p>今後の方針については、連携の部分ですとか、あとは満足度の部分ですとか、あと、不安に感じていらっしゃったのが今後の人口増に伴ってどう施策を展開していくかというような点が課題ではなかったかと思ひます。それで3または4という評価になりました。</p> <p>以上、21、17、16ということで54点、Bという結果になりました。</p>
湯浅委員	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>そのほか、何かご意見はございますか。</p> <p style="text-align: center;">（「なし」の声あり）</p>
湯浅委員	<p>改めて確認させていただきましても、このみらいプロジェクトの今回の施策の評価ですが、進捗状況の評価を一次評価、二次評価あわせて進捗の確認となります。</p> <p>進捗状況の評価以外のご意見などにつきましては、次の評価に向けて、こちらを踏まえて進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、ここで次の評価に入らせていただきますが、所管部長の子ども部長が教育部長と交代となり、子ども部長は退席となります。</p> <p>交代の合間にここで10分間程度の休憩をとらせていただきたいと思います。3時20分——失礼いたしました。ちょっと時間がかなり超過しています。3時15分でも大丈夫ですか。よろしいですか。</p> <p style="text-align: center;">（「はい」の声あり）</p>
湯浅委員	<p>3時15分にまた再開させていただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。</p> <p style="text-align: center;">（大矢委員退室） （休憩）</p>

（3）施策の目標25

湯浅委員	<p>それでは、皆様おそろいになりましたので、再開させていただきたいと思ひます。</p> <p>亀割の公務が終わりましたので、これより出席させていただきます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、早速施策の目標25につきまして、所管部長の教育担当部長よりご説明のほうをよろしくお願ひいたします。</p>
小川委員	<p>はい。それでは、私からは、まず、事前にいただいております質問、ご意見についてのお答えをさせていただきます。</p> <p>1点目として、学習生活支援員は学力の向上を目的としているのかというご質問でございます。</p> <p>支援員に関しましては、特別な支援を要する児童・生徒の学習や生活の支援、そういったものを行っております、主に円滑な学級運営に寄与することを目的としております。したがって、直接的に学力の向上を目的とはしてはおりませんが、特別な支援を要する児童・生徒が落ちついて学習に取り組めるということで、総じて学力は向上する効果も期待できるというふうに思っております。</p> <p>続きまして、いじめホットライン、どの程度利用されているのか。これらによっていじめが未然に防げているのかといったようなご質問でございます。</p> <p>実際は、平成25年度から例えば28年度にかけて、いじめの相談件数は増えてきておりますけれども、そのうち実際にいじめの相談があったという件数につきましては、例えばですけども、25年、26年、27、28年ということで、件数だけいうと、4件、2件、12件、6件というふうに、非常に上下しております。あるいはいじめ相談レターというものがあるわけですが、これに関しても、25、26、27、28で3件、0件、7件、6件ということで、ちょっと数字からして傾向を読み取るには、件数自体も、多くは、全体的にはそれほど多い数字ではないわけですが、そこからまた評価するのはちょっと非常に難しいのかなと思ひます。電話については、またその後、未然防止につながったのかどうかということにつきましても、電話というものの性格上、匿名性が高くて、追跡をすることが困難であったり、特定した事案については解決したということを確認できたものもあるわけですが、なかなかその辺りの評価は難しいといった側面があることをご理解いただきたいと思います。</p> <p>それと、日本語指導教室。今後のニーズですね、ニーズをどのように分析しているのかといったこと。ニーズが急増すると考える場合どのように対応しているのかといったご意見、ご質問でございます。</p> <p>平成28年度に日本語指導教室を利用した児童・生徒は28人。今年度は、もう既に25人が利用しております。したがって、千代田区内の人口の増加、外国人の人口の増加も年々あるわけでございますので、こうし</p>

	<p>た中で今後さらに増加していくことも予想されておりますので、今年度より指導員の数を1名増員して、これまで2名だったのですが、3名体制で実施をしているところでございます。今後、人口の増加、ニーズを見極めて対応していきたいと考えております。</p> <p>次に、指導員、支援員の方の活動を先生方はどのように評価しているかといったこととございますけれども、これは担当教員自体が評価者ではないので評価はしておりませんが、実際、指導員とか支援員の評価は、学校の管理職、学校長ですよね、学校長が行っているところでございます。これは、評価というのは日頃の勤務態度を総合的に評価するものでございますので、それらを通常の評価基準に基づいて評価して、報告書や面談を通じて評価を行っているところでございます。</p> <p>それと、指導員、支援員のネットワーク強化という点、取り組まれているのかどうか。研修等を充実させていく必要があるのではないかとといったご意見を頂戴してございます。</p> <p>これにつきましては、指導員は、毎月の連絡会において、区内の指導員が一堂に会して情報交換会を行っております。とりわけ学習生活支援員につきましては、延べ100名を超えているということもございまして、年に1回、一斉に研修を行っているところでございます。また、その他支援員、各学校において指導員が中心となって連絡会を行っているところでございます。これ、回数は本当に不定期でございまして、多々行っているところで、細かな数字は掌握してございません。</p> <p>具体的にどのような研修が効果的だと考えるのかといったご質問でございますが、具体的な事例を持ち寄って支援方法を学ぶやり方、要は個別のケースに学ぶといったことが効果的であると我々考えてございます。このような研修というものを指導員連絡会で行っているところでございます。また、発達障害についての基本的な知識や理解をしていくことというのが非常に大切だと考えておりまして、支援員研修会はこの点を中心に研修を行っているところでございます。</p> <p>25の施策に関しては以上です。</p>
湯浅委員	はい。ありがとうございます。
	ただいまのご説明、その他の項目につきまして、何かご質問などございましたらお願いいたします。
朝日委員	朝日委員。
	基本的なことで事前にお聞きしておけばよかったんですけど、通級指導の満足度調査結果というのは、調査初期値が平成25年度にはありますが、28年度から始めたというのは、全公立学校でということですか。
小川委員	そうですね。各校に置くことになりました。
朝日委員	それまでは、資料を拝見したら2校を全校に広げたということなんですけど……
小川委員	そうですね、拠点校ということで。

朝日委員 小川委員 朝日委員	<p>これは、その2校の結果が出ているということによろしいですか。</p> <p>はい。</p> <p>わかりました。</p> <p>あと、保護者満足度という指標について、校内通級指導に対する保護者満足度というのは、通級指導の対象者の保護者だけではなくて、保護者全体という理解でよろしいですか。</p>
小川委員	<p>これは、保護者、その通っている保護者だと思います。そのはずなんですけど、ちょっと確認をとらせてもらえますか。</p>
朝日委員 小川委員	<p>事前に、それは……</p> <p>恐らく、そういう調査ですので、ほかの方に聞いても多分ご理解いただけないと思いますので、保護者の方は通われている方の保護者だというふうに思っております。それは、ちょっと最終的に確定をさせてください。申し訳ございません。</p>
朝日委員	<p>はい。最後に1つ、主要施策の成果の資料の中で、校内通級の予算執行率が若干低かったんですけど、七十何%に対してほかが九十何%で。これは、人材確保困難という課題がシートの中に書いてあるんですけど、それと関連しますか。</p>
小川委員	<p>校内通級ということですので、非常に、その年によっても、対象となる方の幅が……</p>
朝日委員 小川委員	<p>そうか、人数自体が。</p> <p>そうですね。これは、必ず、ほぼ大体予測がつくところなんですけれども、その年によってこれはかなりの上下があるということ。もちろん、近年の傾向として子どもの数自体が増えておりますので、そういった対象となる方も当然増加傾向で、増えていく人はおるわけですが、多少その辺りは幅が、年度によってあるということでございます。</p>
朝日委員	<p>わかりました。ありがとうございました。</p> <p>以上です。ありがとうございました。</p>
湯浅委員	<p>はい。よろしいですか。</p> <p>そのほかご質問などございましたら。</p> <p>出雲委員。</p>
出雲分科会長	<p>文部科学省にいじめの集計を出されると思うんですけど、それが最近、いじめの定義が広がったというような話を聞きますけど、それは何件と申請されているのですか。</p>
小川委員 出雲分科会長	<p>はい。それは資料がございます。少々お待ちください。</p> <p>以前の定義だったらいじめじゃないけど、今の定義ではいじめになっているんですよね。</p>
小川委員	<p>要は、嫌な思いをしたという時点で、まずいじめがあったものと捉えて、調査をしたり支援をしたりしなさいという、そういうことになっておりますので、かなり間口が広がったということと。</p>

	<p>あと、今数字がすぐ出ませんが、各学校によって、それをどこまで捉えていじめとするか。要は単発的なものであってもいじめと捉えるという捉え方もあれば、学校によっては、ちょっとそこまで、要はいわゆる従来で言えばけんかレベルといった単発的なものも含めて捉えるというような学校もあつたりして、ちょっとその辺の捉えがかなり幅があったものですから、その辺りを今年度以降少し徹底をして、こういったケースは、いじめ、きちんと報告をしろといったことをやっておりますので、総じてこれからの、そういった意味で言えば、件数が増える可能性はあるなと思っています。</p>
出雲分科会長	<p>あるんですね。増えることが予想されている中で、いじめの件数を指標にすると良くないですね。</p>
小川委員	<p>これが、我々教育委員会の中でもいろいろ意見が分かれておりまして、いじめというものは、もう、これはどこでも起き得るものであるといった捉えが1つございます。そして、それを、もちろん未然に防ぐということも大切なんですが、あつたいじめに対して適切に対応するといったことがやはりもっと大事な話であつて、今まで、例えば隠れていたいじめを顕在化させるということも、非常に大切な要素だということと、先ほど私が申し上げた各学校から上がってくるいじめの件数、ちょっとその辺、捉え方に開きがあつたということをお願いしたわけですが、いじめが、件数があつたから悪かつたとか、そういう捉えをしていたんでは、いつまでもそういった、表面に上がつてこないわけでありまして……</p>
出雲分科会長	<p>出てこない。</p>
小川委員	<p>きちんと上げてもらう。上げてもらった上で、きちんとした対応をするということが、ここが基本になっていくだろうと思っています。</p>
湯浅委員	<p>教育担当部長、その厚生労働省のいじめの件数というのは、事務事業概要に掲載していますか。</p>
小川委員	<p>今載っていると思って、今調べているので。</p>
湯浅委員	<p>それでは事務局で調べますので、お待ちください。</p>
小川委員	<p>はい。</p>
湯浅委員	<p>そのほかご質問は。</p>
出雲分科会長	<p>では、指導員と支援員の方の研修の話を事前にお尋ねしたんですけれども、こういった場合、ケーススタディーというんですか、そういうことが有効な分野でしょうかね、恐らく。</p>
小川委員	<p>そうですね。</p>
出雲分科会長	<p>ですから、事例集のようなものが何かプロジェクトチームかなんかでつくられたりするといいいのかなとか、それを使って研修みたいなことがあるといいいのかなとか、そんなふうにしたんですけど、座学もあるんでしょうけれども。</p>
小川委員	<p>どちらかという、今ご指摘いただいたようなイメージで、それを、</p>

出雲分科会長 湯浅委員	<p>例えばこれまで実際にあったケースであったり、他の自治体で起こった重篤なケースであったり、そういったものをケーススタディーとして、研修の場では生かしているという現状でございます。</p> <p>したがって、それ以外の、今おっしゃった例えばプロジェクトチームをつくって、たくさん積み上げてということを実際はしていないわけでございますが、ここまでの積み上げという中では、きちんと記録といたしますか実績としてございますので、それらを合わせますと、ご指摘いただいたものに近いような形での事例の学習にはなっていくのかなと思います。</p> <p>わかりました。</p> <p>すみません。評価のポイントはまた後ほど変更させていただくことはできますので、特にご質問がなければ、まずはご報告のほうから、お願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p>
出雲分科会長	<p>はい、わかりました。私は、いずれも4点ということで、合計12点の評価としました。取組みが細部にわたって展開されているというふうな印象を全体的に持ちました。</p> <p>学習生活支援員というのは比較的一般にみられる取組みではあるかと思うんですが、コーディネーターの方、支援員の方、ソーシャルワーカーのことをかなりきめ細かく、場合分けして、人を充てているというふうな、そういった印象を持ちました。</p> <p>それらで、いじめへの効果というのは、客観的ではないのかもしれないんですけども、これらの取組みで深刻な事態にはなっていないんじゃないかなということ推察したということで、4という評価にしました。</p> <p>指標は、複数あるという点はすごくいいというふうに思いました。それで4です。</p> <p>1点、「いじめはどんな理由があってもいけない」くらいは目標値100とかにしてもいいのかなという、ささやかなことを思っただけです。その他の指標については、達成もされているし、いい指標だというふうに思いました。</p> <p>今後の方針は、先ほど質問の中でもお伝えしました指導員とか支援員の方々の相互の情報交換のような仕組みを、制度として、あるいは運用としてやったらいいのかなということ。これもちょっとささやかなアイデアなので、全体としては進捗しているんだろうというふうに思って、4というふうにしました。</p> <p>以上です。</p>
湯浅委員	はい。
朝日委員	<p>それでは、朝日委員、お願いいたします。</p> <p>私は、取組みと指標と方針が4、4、4です。まず取組みについては、子どもやその支援者、教職員や支援者に対する窓口、支援、体制の</p>

整備を中心とした取組みの推進が適切であると考えました。

あと、保護者満足度の指標が3つのうちの下2つが若干下がっていることの原因が読み取れなかったんですけれども、例えば校内通級指導は拡充されていて、実質的に保護者の負担は減っているかと思うんですけど、それが分析ではまだ過渡期というところの分析とのことです。もしその他保護者にとって何らかの懸念があるのであれば、経過観察する必要があるなという意味で、理由はわからないんですが、指標の経過だけを見て3ということにさせていただきました。

あと、今後の方針については、28年度に通級を全面にしたり制度拡充の移行期のような印象を持ちましたので、人材確保の困難などの分析に基づく方針というのは適切であると思うんですが、やはりここも保護者満足度という指標との関連については観察が必要だなという意味で4とさせていただきました。

あと指標について思ったことですが、「いじめはどんな理由があってもいけないと回答する子どもの割合」ということを指標にされています。普通に考えるといじめが件数として減るとか、潜在的に減るといってお話しいただいたことが一番いいかと思うんですけど、最終的なアウトカムのはかり方の困難さ、その件数が本当に減るとか潜在的なところをどこまで減らすことができるのかということに配慮しての、まずは意識だろうというところの設定の仕方なのかなと思ひまして、意識と実態との関係についてはもちろん留意する必要があるんですけども、指標の設定については理解できると感じました。

感想です。

はい。ありがとうございます。

では、村上委員、お願いいたします。

はい。私も、4点、3点、4点の順番ですが、これは個別にというよりは大きく気づいたところが2つあって、この点数ということになっています。

1つは、特別支援教育に関わる指導員とか支援員の質の確保、向上です。支援員、指導員の質の確保、向上というところで、取組みとしても追いついていないところが若干あるかなといったことは今後の方針として重要な視点かなというところです。

もう1つは主な取組みと今後の方針です。ほかはいいと思うんですけども、現場に直接響いてくるところなので支援員、指導員といったその特別支援教育を支える人材というところで4点ということにそれぞれしました。

指標は3点というのは、学習生活支援員配置に対する保護者満足度が若干下がっているのは、誤差もあるかもしれませんが、そうした影響があるかもしれないので、3点ということにしました。

その1つ目の視点は、これは触れられていることですが、指導員、支

湯浅委員

村上委員

	<p>援員の人材がほかの区と奪い合いになっている中でどう確保していくのかというところで、もう少し踏み込んだ施策や検討があってもいいのかなということは、現場に直接関わる話なので重要ななと思いました。</p> <p>もう一点、視点が足りないのかなと思ったところが、「他者を思いやり、人との関係をより良く築く力を共に育む教育」という施策の目標があって、心の教育とか特別支援とかいじめ防止とかが具体的にあるんですけども、他にこういう視点が少し薄いかなと思ったのは、健常者のお子さんが障害を理解するとか、あるいはさまざまな立場の人と交流して他者の尊重を学ぶとか、道徳で多少はやっていると思うんですけど、特に障害理解とかインクルーシブ教育まではいかなくても、そうした通常の学校に通っている子どもの側の特別支援理解みたいな視点がやや弱いかなということが気になりました。特別な支援を必要とする子どもにどうサポートするかという視点は厚いんですけど、共生とか人との関係とか他者の思いやりというところでは、普通の小中学校、通常の小中学校の障害理解とか特別支援への理解というのをどう深めるかという視点がもう少しあってもいいかなというふうに思いました。</p> <p>以上です。</p>
湯浅委員	<p>ありがとうございます。</p>
清水委員	<p>では、清水委員、お願いいたします。</p> <p>学校教育においては、人的配置を含めて充実した取組みを行っているということで、ここは5にしました。</p> <p>指標については、これも先生方がおっしゃっているのと全く同じで、やっぱり「いじめはどんな理由があってもいけない」というのは、これは限りなく100にしたいなということ。</p> <p>それから、特別支援に対する数値が若干下がっているのは、これも、朝日先生がおっしゃるとおり、ちょっと理由がいまいわからないので、理由をちょっと調べたいなというところで4、それに関連した今後の方針ということで4というふうにしてあります。</p>
湯浅委員	<p>ありがとうございました。</p>
松本委員	<p>では、松本委員、お願いいたします。</p> <p>はい。この施策の目標の中では、めざすべき10年後の姿ということで、丸で2つあるわけですけども、1つ目の、道徳を含む心の教育だとか多様な体験活動、そのところで指標が設定されていないので、ぜひそういうところにも力を入れてもらいたいなというように思ったので、またいつか改定するときは、そのところにも指標をつくってもらいたいなと思っています。</p> <p>で、今、指標が設定してある特別支援教育で、やはり保護者満足度などの数値が下がっているというのは、千代田区の発達障害なんかも含む、広い意味での障害児への対応がやっぱり不十分だということを保護者の人はみんな思っているんじゃないかなということで、私は指標は2</p>

	<p>ということでやりました。もちろん、ほかの区に比べて、対象者の数が少ないだとか、いろいろ、できることの難しさはあるんでしょうけども、これから児童相談所の設置に向けて、これまで学校教育とともに、児童・家庭支援センターというところが障害児対策というのをやってきて——子ども部長はいなくなっちゃいましたけど、児童相談所の設置に向けて検討する中で、千代田区の障害児対策というのを、いま一度、どこまでやるのか、今、とりあえず通級を中心にですけれども、もうちょっと、重度の人をどうするんだとか、そこら辺も含めて、根本的にやらないと、だんだん対象者も増えてきているので、そういう点でちょっと、この施策の目標についてはちょっと辛いんですけど、8点でCという結果になりました。</p> <p>以上です。</p>
湯浅委員	<p>はい。ありがとうございます。</p>
小川委員	<p>先ほどいただいた質問で、1つは回答のほうが。</p>
湯浅委員	<p>はい、そうですね。先ほど校内通級指導に対する保護者の満足度につきましてでは、私、取り違えておりまして、これ、全保護者が対象だということでございます。申し訳ございません。</p>
朝日委員	<p>朝日委員、どうぞ。</p>
朝日委員	<p>私、それに関してちょっと思ったんですが、先ほど普通の子どもが障害を理解するという視点があったんですけど、親のほうも同様かと思えます。例えば校内通級でいるお子さんに対して、お母さん同士でしゃべる機会がない限りは、なかなか先生からは通り一遍の説明しかなくて、なかなか保護者の理解が進んでいない</p> <p>例えば、この区民アンケートの結果も、「満足度はわからない」がなかなか大きくて、その他の保護者の理解の側面もあるのかなと思って、対象者へのアンケートなのかということをお聞きしたんですけど。どんな指導をその通級指導で受けていて、おうちでどんな宿題をしているのかとか、そういうことも、ほかのお母さんが知っているとは随分違うというのもあるかと感じました。</p>
湯浅委員	<p>ありがとうございます。</p>
小川委員	<p>今のご指摘も踏まえまして……</p>
湯浅委員	<p>はい。どうぞ、小川委員。</p>
小川委員	<p>私もちょっと取り違えたぐらいであって、きちんとその辺り、調査の仕方も含めて、きちんとしないと、正しい、何ていうんですか、この意識、我々はこれを尺度にしている以上、きちんとその辺り、場合によってはちょっとその調査の仕方ですよね、考えたほうがいいのかもかもしれません。参考として受け止めにさせていただきたいと思えます。</p>
朝日委員	<p>指標が「保護者の」となっているので、そこの辺りを、ほかの……</p>
小川委員	<p>そうなんです。「評価する」、「評価しない」、「わからない」という方も恐らくいらっしゃると思うので、ちょっとそこを、重要なご指摘</p>

	だと思しますので、課題として受け止めさせていただきます。ありがとうございます。
湯浅委員	どうぞ、出雲分科会長。
出雲分科会長	お二人に聞いてみたいんですけど、0.2の違いというのは、やっぱり探る価値のある違いなんですか。
朝日委員	この採点の仕方も、実は私、聞いてみたかったんです。誤差かもしれないとおっしゃったのもあって。これ、どうなんですか。
村上委員	対象と、やっぱり分布が……
出雲分科会長	平均よりも分布ということですね。
村上委員	平均もあるんですけど、分布がやっぱりどうなっているかという。
出雲分科会長	分布の変化を見ると、原因なんかもあるけど……
村上委員	それで意味があるかどうかということだとは思うんですけど。
朝日委員	そうですね。これ、平均値をとっているということなんですよ。
出雲分科会長	これ、平均なんですよ。
小川委員	要は、これは満足度なので、「満足」というふうに答えた方のポイントになっているはずなので、4点満点中の何点かという聞き方での平均なので。
出雲分科会長	恐らく、「満足」が4点、「やや満足」が2とか3とか、そういうことですよ、きっと。
小川委員	その調査の仕方とか、あと、恐らく対象年度によつての母数がどれぐらいあったかとかって、そういうことも恐らく関係してくるんでしょうから……
出雲分科会長	そうですね。あるでしょうね、恐らく。
小川委員	ちょっと、そこも含めて分析、改めてその設問を、先ほどあったような、先ほどの設問も含めて、ちょっと再考したいと思います。
湯浅委員	ほか、ご意見のほうがございましたら。 評価のポイントをここで変えられるというような委員がいらっしゃいましたら、まだ回答できていないご質問は今引き続き調査しています。
出雲分科会長	いえいえ。
小川委員	聞いてもわからない。
湯浅委員	恐縮ですが、いじめの件数のご質問に関しては、進捗に影響がないということであれば、時間もありますので……
出雲分科会長	はい。指標にしてみたらどうかなと最初は思ったんですけど……
湯浅委員	なるほどですね。
出雲分科会長	それはなかなか難しいというお答えでしたので。はい。
湯浅委員	よろしいですか。
出雲分科会長	はい。
湯浅委員	では、最後、分科会としてのまとめに入らせていただきます。 改めて確認ですが、ポイントの変更はございませんか。よろしいでしょうか。

<p>湯浅委員</p> <p>出雲分科会長</p> <p>湯浅委員</p>	<p>(「はい」の声あり)</p> <p>はい。</p> <p>では、分科会長、よろしく願いいたします。</p> <p>はい。ありがとうございます。</p> <p>主な取組みについては、3点から5点まで幅が結構ついております。これは施策の対象自体が幅広いですから、一般的な子どもから、障害のある子、発達障害の子。さらには心の問題というふうな感じで幅広いですから、その幅広い対象者の中での評価がちょっと分かれたのかなというようなことを、お話を聞いていて思いました。これらの子どもの中でもっとここに力を入れるべきとかというふうなのはあり得るだろうというふうに思います。</p> <p>指標につきましては、こちらも幅があります。これは満足度の部分が低下している要因ということを思われた方もいらっしゃるし、また、指標が、たくさんはあるんですが、もう少し別の観点から指標化してもいいのではないかと。例えば、村上委員がおっしゃっていた障害への理解というようなものがあるんでしょうし、あとは発達障害というものがもし極めて問題化しているのであれば、それを指標化ということもあるんじゃないかということだったと思います。</p> <p>今後の方針はおおむね評価がそろってしまっていて、人材育成の部分で課題があるのではないかと。あとは、人材のネットワークという部分に課題があるのではないかとというふうな意見があったのではないかと思います。</p> <p>以上で20点、16点、19点ということで55点、B評価ということになりました。</p> <p>ありがとうございます。</p>
---------------------------------------	--

(4) 施策の目標26

<p>湯浅委員</p> <p>小川委員</p>	<p>それでは、次の施策の目標26の評価に入らせていただきます。委員の交代はありませんので、引き続き始めさせていただきます。</p> <p>事前にいただきましたご質問がございますので、所管部長の教育担当部長よりご説明をお願いいたします。</p> <p>はい。それでは、事前にいただいたご意見、ご質問に対してお答えいたします。</p> <p>まず1点目、グローバルな教育を行い、その成果を発揮する活動の場を設ける必要があるのではないかと、どのようなことが考えられるかというご質問でございます。</p> <p>これにつきましては、2020の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、全都を挙げて、いわゆるオリ・パラ教育を推進しているところでございます。千代田区においてもオリ・パラ教育をグローバルな教育を</p>
-------------------------	--

行う貴重な機会として捉えておりました、東京都が示す育成すべき5つの資質というものがあるわけですが、具体的には心の教育、伝統文化、共生社会、スポーツ志向、国際教育といったものをもとに推進していくということになってございます。オリ・パラ教育におきましては、学んだことを生かすことを含めた教育という意味で進めているところでございます。

例えばですけれども、国際教育を理解する学びでは、豊かな国際教育を身につけるために、さまざまな国の言葉や文化について学ぶだけではなくて、学んだことを生かして、実際に大使館の職員とかインターナショナルスクールなどの児童や生徒との交流、そういったものも行って、国際感覚を育てているところでございます。

続きまして、幼稚園等への外国人講師の派遣には、どのような効果を期待しているのかといったこととございます。実際に派遣をしているわけですが、その中で、外国人とのふれあい、関わり合いを通して、外国語に慣れ親しんだり、異文化への興味関心が促進しているものと思っておりますし、これから小学校で英語科が教科化されていく中で、なるべく幼少期に遊びも取り入れて、楽しむことによって、語学に対する抵抗といいますか、少しハードルを低くしていき、また小学校に入ってから学び方にスムーズに移行できるような形が今後効果として期待できるのではないかと考えております。

それと、健康、食育、体力向上、幼児・児童国際教育とともに、保護者の満足度が高い。ただし、学力の達成率が平成22年から見ると、低下傾向にある。どのような原因が考えられるのかといったご質問でございます。

過去3年の千代田区の達成度調査、これ、経年比較をしているわけですが、率に、おおむね、変化がないか、若干の実は上昇傾向にございます。達成度の問題について申し上げますと、毎年、要は母集団が変わるといったようなことが当然、同じ学年で捉えれば、母集団が変わるといったこともございます。実際、平成22年と平成28年の同一学年、要は学年進行でどんどん学年が上がっていくわけですが、同一学年での比較というのは一概に学力の低下とは考えられないというふうに我々は評価してございます。

なお、これはあくまでも相対評価でございますけれども、都内において千代田区の学力というものは現在トップクラスにあって、これもここ数年でまた、要は順位を上げてきておりますので、必ずしも私どもは低下傾向にあるとは考えてございません。

それと、中学生の留学または留学の受け入れ等、グローバル教育の推進についてご質問でございます。

千代田区の学校では、ALTを取り入れて、外国語の活動をしたり、あるいは外国人のゲストティーチャーを交えて、文化あるいは国際交流

	<p>を行ったりしているところでございます。グローバルに活躍できる人材は、育成に向けた教育が非常に重要であると考えておりまして、中学の留学受け入れにつきましては、これ、ウエストミンスターのことをお尋ねということによろしいのでしょうか。であれば、今年度に関しては世界情勢の不安定さ、特に現地でテロが起きたような事態もございまして、今年度に関しては中止というふうにさせていただいたわけですが、海外交流事業としての貴重な場だというふうに考えておりまして、今後も社会情勢に配慮しながら取組みを継続して、中学生の学びの場としていきたいと考えてございます。</p>
湯浅委員	<p>私からは以上でございます。</p> <p>はい。ありがとうございます。</p> <p>それでは、ただいまのご説明、そのほかの項目につきましては、ご質問のほうがございましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。</p>
出雲分科会長	<p>出雲委員。</p> <p>幼稚園に外国人講師を派遣するというのは、東京でも珍しいんですか。それとも……</p>
小川委員	<p>そうですね、珍しいと思います。</p>
出雲分科会長	<p>先進的なんでしょうね、きっと。</p> <p>ただ、自分が幼稚園児だったら、効果があるか、ちょっと自信がないんですけど。</p>
小川委員	<p>実際ですね、実際、私、現場を何度も見ておりますけれども、語学の教育というよりは、ゲームです。ゲーム感覚でこう言ったり、あるいは、こう——全然こう、いわゆる何ていうんですかね、もう少し学年が進行してくると、恥ずかしさみたいなものも出てくるんでしょうけれども、ある意味そういうのがあまりない時期で……</p>
出雲分科会長	<p>なるほど。ないですね。</p>
小川委員	<p>大声で歌を歌ったり、もう、要は外国人講師の勢いに圧倒されているような状況が見て取れますし、あとは先ほども申し上げたような苦手意識を持たないように、楽しいというところから、入り口として入っていくといったこと。それと、機会をなるべく多く設けることによって、まず耳で慣れるといったようなこと。そういったようなことも期待しております、いわゆる何ていうんですかね、私が子どものころに経験したような英語の授業ということとはもう、まるで違ったイメージのものだというふうにご理解いただければと思います。</p>
湯浅委員	<p>はい。そのほか。</p>
朝日委員	<p>朝日委員。</p> <p>小学校の英語活動コーディネーター派遣というところが、予算規模がもともとそれほど大きいわけじゃないんですけど、27年度で見ると執行率が7割で、ほかの8割、9割に比べるとちょっと落ちるようなんです</p>

湯浅委員 朝日委員	<p>けども。</p> <p>もし表が出ているページ数がわかれば……</p> <p>主要施策の成果の14ページの予算現額のところに、項目の1つとして4番目にあるんですけど、先ほどお話があったように、何かぶれがあって、年度によって違いますよとかいう性質のものでしょうか。</p>
小川委員	<p>ちょっと、これ、細かな原因分析ができておりませんが、まだ、どちらかという、十分に各学校に、非常に学校によつての若干温度差があるというのもございます。それと、その辺り、通常のこれまであったカリキュラムの中に取り入れているわけでございますので、若干その辺り、学校によつて温度差があったのではないかなというふうにも思いますが……</p>
朝日委員 小川委員	<p>活用しようという、その。</p> <p>全く同じような形ではないような、私は捉えておまして。その辺りが執行率、当初予定していたものよりは届かなかつたのかなと。そういったことが一端にはあるのではないかと思います。</p>
朝日委員 小川委員 湯浅委員 村上委員	<p>わかりました。カリキュラム上の理由が多分あるということですね。</p> <p>はい。</p> <p>それでは、ほかに。村上委員。</p>
小川委員 村上委員	<p>1点だけ。私も去年同じような話を教育委員会の外部評価で聞いた気もするのですが、小学校のALTの派遣の拡充強化というところは、外国語の教科化と外国語活動の低学年化というのに伴つて全国的にも結構危惧されている中で、区の実施によつて結構成果が変わつてきかねないところだと思うのですけれども、現状、ALTの強化は大丈夫そうですか。</p> <p>ALT自体の強化。</p> <p>強化というか、派遣の拡充とか、小学校レベル——要するに人が確保できているとか、予算の確保面とか、大分もう迫つてきているというか。現状どんな感じになっているか教えていただきたいと……</p>
小川委員	<p>そうですね。今、私が見た限りでは、かなり特定の方が幾つも掛け持ちで回つていて、先ほど申し上げたように、各学校によつて、派遣の希望をして派遣しているような状況でございますので、先ほど申し上げたような、少し回数なんかにも幅が出てきているような状況もございます。ただ、これから、さらに各学校で、しかも今より少し密度濃くやつていくということになると、今おっしゃつた点は、非常に、人材がじゃあ豊富にあるかと言われると、そこはちょっと不透明なところが正直ありますので、きちんと教えられる人材を確保していく。なるべく、拝見した限りは子どもたちもどんどん講師に慣れていって、非常に、言葉に対してと、あと外国人に対してのハードルがどんどん低くなつていくような状況も見取れますので、なるべく同じ方に継続してやつていただくということも大事なのかなとも思いつつ、確かに頭数として</p>

<p>村上委員 湯浅委員 出雲分科会長</p>	<p>もさらにこの派遣の必要が今後出てくるのかなと思います。課題だと認識してございますので。 ありがとうございます。 出雲委員、どうぞ。 千代田区ですと、中学校を卒業して、高校から英語圏などに進学をするというのは一般的だと考えていいですか。</p>
<p>小川委員 出雲分科会長 小川委員</p>	<p>いえ…… それとも、やはり極めて少数——ですね。 そうですね、はい。ほかと比べてというデータがございませんけれども、やはり圧倒的に多いのが通常のこの高校でしょうね。</p>
<p>出雲分科会長</p>	<p>通常の高校に進学されるということですね。ということは、受験なんかも、考えないといけないということですよ、国内における。</p>
<p>小川委員</p>	<p>そうですね、はい。データの的には、大体年間1人から2人程度ということになりますね。</p>
<p>出雲分科会長</p>	<p>1人から2人。何かもう少し多くてもいいんですかね。わからないですけど。</p>
<p>湯浅委員</p>	<p>では、この評価の報告をいただきたいと思いますが、他にご質問はございますか。 (「なし」の声あり)</p>
<p>湯浅委員</p>	<p>よろしいですか。はい。 では、出雲委員からお願いいたします。</p>
<p>出雲分科会長</p>	<p>はい。主な取組みは5点としました。いいなと思ったのは、体力、学力面での差が解消しているというようなことを成果だと思いました。上位層をさらに上げていく、下位層を上げていくなどいくつかの方向性があると思うんですが、やはり差がなくなっているということが成果だと思いました。 あとは「英語が好きな中学生の割合」というのがとても高いというようなことが記載されていまして、これも成果だというふうに思いました。 1点質問もさせていただいて、教育と活動の場のリンクという点で課題があると思いますが、ほかの施策の中に含まれるようですので、それは施策同士の連携ということと理解しましたので、5点としました。 指標も、満足度は非常に高いんです。ただ、英検の合格というものに向けては、現状まだかなり差があるというふうな現状で、これが36年までに接近できるかどうか、懸念されると思いました。質問もさせていただいた学力の達成率。これが、例えば平成24年などはすごく低くなってしまっていて、これはカラーの資料から見たんですが、学力面での取組は安定していないのかなと思ったというところがありました。したがって、3ということにしました。つまり、何か環境要因などで大きく変化するものがあるのかなというふうに思ったということです。</p>

湯浅委員	<p>今後の方針は4です。主な課題としては、英語力などを活用する場の検討。留学ですとか、費用に余裕があるなら、もう少し増えていってもいいのかなとかというふうなことを考えたものですから、4としました。</p>
朝日委員	<p>以上、12点です。</p> <p>はい。ありがとうございます。</p> <p>では、朝日委員、お願いいたします。</p> <p>私も全部4点ですが、取組みに関して5に変えていただきたいんですけど。</p> <p>まず取組みに関しては、学力、体力と、あと特に中学生は英語の成果が確認できます。あと、幼児、児童向けの英語の国際化の取組みに関してですが、これはニーズが急激に高まっているのかなというふうに読んだんですけども、学習指導要領の方向性などの背景があってニーズが高まったことで、成果につながっていないように見えてしまうという背景があるのかなと思ひまして、取組み自体に関してはそれほど問題はないのではないかなと思ひました。</p>
湯浅委員	<p>指標についても同様です。保護者満足度についてのコメントなんですが、体力とか食育、健康などは、家庭での意識とか取組みがこの成果に対しては外部要因というか、こちらではコントロールできない要因になるので、その保護者との関わりが評価対象となるというのは理解できませんが、国際教育の保護者満足度というのは、成果をそのまま表すものではなくむしろ保護者のニーズを拾ってしまう部分が今回出てしまったのかなと思ひます。保護者のニーズが高まっていることは、対応しなくていいということでは全くないのですが、今やっていることに関して問題があるとは思われないというふうに思ひます。</p> <p>今後の方針に関してですが、国際教育の推進に特に問題があるとは思われないんですが、今後強化すべき分野であることは確かであると思ひました。それで、特色ある教育活動との連携などで、国際的な地域資源についても千代田区は恵まれていると思ひますので、そういった環境を生かすべきではないかと思ひましたが、先ほどのお話では大使館とやっていたらいいということでしたので、適切なのではないかと思ひます。</p>
村上委員	<p>以上です。</p> <p>はい。ありがとうございます。</p> <p>では、村上委員、お願いいたします。</p> <p>はい。4、4、4ということにみんなしましたが、取組みについては、もしかしたら5でもいいかもしれないので、ちょっと皆様のご意見を聞いて考えます。</p> <p>千代田区の特性を生かした取組みというところで、しかも学力だけではなくて、体力とか国際理解とか伝統文化とか、幅広く目配りされてい</p>

るということによろしいんじゃないかというふうに思いました。

指標自体は比較的穏当な指標かなと思うのですが、学力に関する指標は、千代田区なので、中学から私立に進学する子どもさんがどれぐらいいるかで、要するに、特に中学校だと公立に何割残るかというところによって変わってくるので、そういった点で私学への進学率に影響されるような指標なので、そこをどういうふうに考えるのかというところが難しいところかなというふうに思いました。

あとは、英検3級に関しては、目標値まで開きがあるので、4点ということにしました。

指標に関してもう一点申し上げますと、アウトカムを指標にするということで、取組みと距離が遠くなる例があるのですが、例えば英語に関して言うと、「英語が好きな生徒の割合」というのはアウトカムでもいいんじゃないかという気がします。あとは外国に関心を持ったかとか、そういう、要するに意欲、関心、態度みたいなところもアウトカムと言えるわけで、英語の学力とか英検3級だけではなくて、英語が好きとか、外国に興味を持ちましたとか、そういったことを加えてもいいのではないかというふうに思いました。体力に関して言うと、確かにアウトカムはあるのですが、体力に関しては、むしろどういう取組みをしたかといったアウトプットの指標があってもいいのかなというふうにも思いました。

この体力に関しても、私立にどのぐらい行くかで中学生の数値が大分変わってくる可能性もあるので、そこが千代田区の事情として工夫をする必要があるのかもしれないし、数値を読むときにそういうことに配慮する必要があるというふうに思いました。

今後の方針ですけれど、4点としたのは、個々の取組みはレベルが高いと思うんですけれども、何か千代田区の強みみたいなものをもう少しあってもいいかなと思っていて。例えば国際理解——外国人が近くにいるとか、そういうことはあるのですが、例えば千代田区は区立の中等教育学校を持っていますが、例えば中等教育学校との連携みたいな話があんまり出てこないとか、いわゆる校種間連携の話が少ないとか、地域との連携とかということがあってもいいかなというふうに思いました。

総じて言うと、要するに私立に抜けてしまう子どもさんはもちろん多いですが、千代田区の公立学校はこんなに魅力的な公立学校を目指すという志がもうちょっとあってもいいのかなと。精神論みたいな話ですけど、公立としてやるべきことはやっていると思うので、千代田区だと、もう1レベル上を目指せるんじゃないかと。つまり、極端に言ってしまうと、私立には負けないぞというところまで目指せるのではと思ったので、そういった志がもうちょっとあってもいいのかなと思いました。

以上です。

ありがとうございます。

湯浅委員

清水委員	<p>それでは、清水委員、お願いいたします。</p> <p>もう、今、最後に村上先生におっしゃっていただいたように、公立としてやることはやっているんだろうなというところで、全部5でもいいんですけども、5、4、4にしました。</p> <p>指標は、各指標が横ばいの値なので、5じゃないかなと。4かなというところですよ。</p> <p>で、これ、指標とするかどうかはあれなんですけど、満足度調査だとかも、1つあるのは、利用者に対して満足度を聞くというのが基本にはなるんですけど、学校教育においては、教育委員会から学校を通じて、子どもに渡されて、子どもから保護者が満足度を述べるという流れが一般的だと思うんですけど。やっぱり、この日本人の保護者の一般的な気持ちとしては、子どもを人質にとられて満足していますかどうかというのを、全くそこと切り離して答えられるかどうかとなると、意外と低い評価をつけづらいところがあるんじゃないかなというところがあるものですから、保護者に対して満足度を聞くというのは、もうそろそろ——それは別になくさなくてもいいとは思いますが、それだけで胸を張るのは、なかなか教育委員会としては難しいんじゃないのかなというものは、ちょっと辛口の評価としては、ここに出てこないんですけど、あります。</p> <p>なので、もうそろそろ、村上先生もそんなことをおっしゃってくださっているんだから、だったら子どもの評価を指標みたいな形にして出していてもおもしろいんじゃないかなという気はしています。学校現場では、もう、かなりシビアに生徒と先生との間で熾烈な日々は大分繰り広げられているんだろうと思いますから。評価が低かったから悪いとか、すぐにはそういう、一面的なあれですから、そうはならないかもしれませんが、1つの指標としては。もう研究をしてもいいのかなと。意外と子どもは正直ですから。</p> <p>以上です。</p>
湯浅委員	はい。
松本委員	<p>では、松本委員、お願いいたします。</p> <p>はい。この施策の分野は千代田区の教育委員会で得意中の得意のところなんですけど、唯一のウイークポイントがまさに体力というところだったんですが、この成果と課題のところを見ると、28年度、小、中、男女ともに全て国平均を上回ったというこれは、特筆に値するものだという事で、5ということにさせていただきました。</p> <p>あと、指標についても、達成度調査及び英検3級合格というのが、数値が向上しているということで、4に評価できるなというように思いまして、Aということになりました。</p> <p>以上です。</p>
湯浅委員	はい。ありがとうございます。

小川委員	<p>この26番の施策の目標、今、松本委員もおっしゃりましたが、千代田区として、重点的に行われている事項で、評価もそれに従って高評価をいただいていると。</p> <p>教育担当部長のほうから今のご意見に対して、何かございましたら。</p> <p>そうですね、やはり、かなり、例えば校種間連携のお話とか、先ほど村上先生からいただきましたけど、実は一定程度やっていて、スムーズな小中への移行だったり、幼小の移行だったりということはやっぱり私どもも課題だと思っていて、ちょっと全てここの中でなかなか網羅できなかったんですが、一応我々としては、もっと余地はあるんでしょうけれども、連携をしていかなきゃいけないのかなと。その中で、中等との連携ということに関しては、これは在来中の底上げということも目標に入っているんで、その辺りはまだまだ取り組みの余地もあるのかなというように捉えさせていただきます。</p> <p>あとは、本当に、なかなかこの評価については、これ、どんな事業もそうなんですけども、なかなかこの尺度が本当にぴったり来るものなのかというところは、我々も若干の違和感を感じながらやっているところがあるんで、そうですね、とり方については、やっぱり課題だというふうに思いますので、今日のご意見を参考というふうにさせていただきたいと思います。ありがとうございます。</p>
湯浅委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>ほかにご質問がございましたらお願いしたいのですが。</p> <p>先ほど、村上委員、皆様のご意見を聞いて、また少しお考えになりますということでしたけれども、今の教育担当部長のご意見などもございましたが。</p>
村上委員 湯浅委員	<p>じゃあ、主な取組みは5点に。</p> <p>誘導しているわけではございませんが、逆に、先ほど村上委員もございましたけれども、千代田区だからこそ、あえて期待をして厳しくというような評価もあろうかと思えます。</p>
村上委員	<p>いろいろなご意見をいただきたいと思っておりますが、そのほかご質問並びにご意見でも構いませんので、何かございましたら。</p> <p>教育委員会は保育園を管轄していて、さらに中等教育学校があって高校段階も区で持っている、区の子どもを0歳から18歳まで支援するというようなことを意識されていると思うのですが、計画にそれがあまり出てこないというのがあって……</p>
小川委員 村上委員 小川委員	<p>そうですね。</p> <p>何かもったいないなという、意識されて、すごく動かれているのに。</p> <p>実際は、例えば幼保の連携もやっているところがあって、やっぱり制度が違うじゃないですか、もともとの。</p>
村上委員 小川委員	<p>はい。</p> <p>ただ、その中でも、お互いに、例えば人を入れ替えて、研修期間のよ</p>

	<p>うな形で、幼稚園の教員には保育園の現場で、保育士に幼稚園の現場を経験させて、その中でやはり課題を共有したり、意見を言い合ったりということも実際やっていたり、それをまたさらに保幼から小学校に上がるときに、千代田区の特徴である幼稚園と小学校、全て併設なので、いろいろ授業の連携とかもとりやすいんですね。だから、いわゆるお兄さん、お姉さんたちがいて、こんなところだということ幼稚園のうちから自覚もできるし、お兄さん、お姉さんというのがまた逆に、小さい子たちに対しての、いろいろ情緒の面でもあるし、その中での学びもあるわけでありますので、そういったことというのは、これはずっと脈々とやってきたことではございます。</p> <p>ちょっと、そうですね、確かにこういうところには、なかなかしたためることができなかったわけではございますけども。</p>
村上委員	はい。ぜひ……
小川委員	はい。まだ、課題はあると思っていますので、引き続き取り組みたいと思っております。
村上委員	はい。
湯浅委員	そのほかご質問やご意見がなければ、分科会としての取りまとめに入らせていただきますが、いかがでしょうか。よろしいですか。
	(「はい」の声あり)
湯浅委員	それでは、分科会長、取りまとめをよろしくお願いいたします。
出雲分科会長	はい。ありがとうございます。
	主な取り組みは全員5点ということなので、施策も幅広く展開されているし、その質も非常に高いというふうな評価だったと思います。また、成果も数値がいくつかが上がったり、国平均になったり、国平均以上になったりということで、着実な進展が見られるという評価だったと思います。
	指標については、満足度という点では多少疑問が提示されていましたがけれども、おおむね順調に進捗しているというふうな評価だったと思います。ちょっと、私だけが低くなっちゃったんですけど、それは意見でも申し上げた、学力の達成度の点の上がり、下がりがあるという面と、英検の割合は結構ハードルがありそうだというふうな、そういう理由でした。はい。でも、皆さん高評価となっています。
	今後の方針、皆さん4ということで、こちらも高い評価になっています。学校の連携を強めるというふうな話とか、あと区内の地域資源をもっと活用してはどうだろうかというのが、わずかですが1の理由というふうなことで伺いました。
	以上、主な取り組みが25点、指標が19点、今後の方針が20点、64点のA評価ということで、全体でAが出たのは初めてですか。
湯浅委員	これまでの中では初めてです。
	そのほか、特にご意見のほうがあれば、これで分科会としての評価

<p>小川委員 湯浅委員 小川委員</p> <p>出雲分科会長 小川委員</p> <p>出雲分科会長</p> <p>小川委員 出雲分科会長 湯浅委員</p>	<p>を確定させていただきたいと思います。よろしいでしょうか。</p> <p>（「はい」の声あり）</p> <p>さっきのいじめの件数について……</p> <p>はい。もしわかるようであれば、ご参考まで。</p> <p>それでは、平成27年度と28年度のいじめの認知件数についてでございます。</p> <p>はい。</p> <p>小学校については、平成27年度、件数で申し上げますと19件。28年度、17件でございます。中学校・中等教育学校は、認知件数で、平成27年が2件、28年が6件ということでございます。</p> <p>それで、そのうちで、解消した件数。前後しちゃって申し訳ないんですが、小学校が、27年が、先ほど19件と言いましたけど、そのうち12件が解消していると。28年については17件中10件が解消しているということでございます。中学校に関しては、27年、2件中2件解消している。28年については、6件中4件が解消しているということでございます。</p> <p>ありがとうございます。これが出ていたら高くなっていたということはありませんか。そんなことはない。大丈夫ですか。</p> <p>はい。</p> <p>分かりました。</p> <p>分科会としての評価は全体会で提出させていただきますので、その中でまたご意見などがあれば、全体会の中で伺えればと思っております。</p>
--	--

4 その他

<p>湯浅委員</p> <p>小川委員 湯浅委員</p>	<p>それでは、最後ですが、施策の目標の34がございまして、今お手元のちよだみらいプロジェクトをご確認いただけますでしょうか。8ページ、9ページでございます。</p> <p>9ページのところをごらんください。本日、施策の評価をいただきました22番、「保護者の多様なライフスタイルに応じた子育てができる環境を整えます」。こちらが施策の目標34番と再掲と、同じ施策の目標になっています。</p> <p>こちらにつきまして、22番の施策の目標の評価が本日終わりましたので、同じ再掲ということで、割愛させていただきたいと思っておりますが、皆様よろしいでしょうか。</p> <p>（「はい」の声あり）</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、以上をもちまして、子ども・保健福祉分科会（第2回）を終了とさせていただきます。</p> <p>改めて確認させていただきますが、本日の評価をいただきました内容は公表することとなりますので、議事録を作成させていただきます。作</p>
----------------------------------	---

湯浅委員	<p>成後、後日その議事録と、講評の主なご意見を整理して取りまとめた評価結果表を送付させていただきますので、内容のご確認をお願いいたします。ご確認いただきました評価結果表につきましては、分科会の評価として、全体会に提出の上、議事録は区のホームページに公表させていただきます。</p> <p>こちらの内容は、お送りする通知文で改めてご説明をさせていただきます。</p> <p>次回ですが、かなり間をあけてしまって申し訳ないのですが、日程調整の都合上、7月の28日の午前中ということになります。こちらの分科会は、最初に開催し、最後に開催となる分科会として、長期間に及ぶものになりますが、どうぞご協力、引き続きよろしくをお願いいたします。</p> <p>特段何かございませんでしたら、こちらで終了とさせていただきますが、よろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">（「はい」の声あり）</p> <p>はい。</p> <p>本日もご協力ありがとうございました。</p>
------	--